

Pioneer *sound.vision.soul*

MDLP



MD/チューナー・DSP メインユニット

MEH-P070

取扱説明書

目次 4 ページ

carrozzeria

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

警告

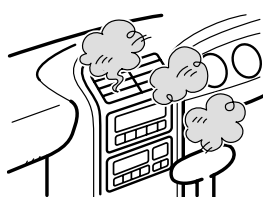
[異常時の処置]

故障のまま使用しない



画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

[使用方法]

運転中に操作をしない



画面を長く見る必要がある複雑な機能は、自動車の運転中に操作をしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。操作は、必ず安全な場所に車を停車させて行ってください。また運転中、画面を注視する時間は必要最低限としてください。

目次

はじめに

1	本書のみかた	8
2	本機の特長	10
3	ご使用になる前に	12
4	リモコンの準備	12
5	フロントパネルの 取り外しかた/取り付けかた	13
6	サブウーファースの設定について	14
7	5.1ch対応・DSPユニットの 使用について	16
8	操作ガイド (サイバーサイン)について	17
9	各部のなまえ	18

ここから

ここだけ読めばすぐ使えます

1	基本的な操作	20
	電源を入れる / 切る	
	ソース切り換え	
	音量調節	
2	内蔵 MD のふだんの操作	22
	MD を再生する	
	グループを選ぶ	
	曲を選ぶ	
	早送り/早戻しをする	
	MD を取り出す	
3	ラジオのふだんの操作	24
	バンドを選ぶ	
	放送局を選ぶ	
4	マルチ CD のふだんの操作	26
	CD を選ぶ	
	曲を選ぶ	
	早送り/早戻しをする	

内蔵 MD

内蔵 MD で MD を聞く

1	タイトルを表示させる	28
2	ファンクションモードの 切り換えかた	28
3	繰り返し再生する	29
4	違う曲順で再生する	29
5	曲 / グループを探す	30
6	再生を一時停止する	31

ラジオ

ラジオを聞く

1	放送局を 1 局ずつ登録する	32
2	複数の放送局を自動的に登録する	32
3	登録した放送局を呼び出す	33
4	放送局名を変更する	34
5	放送局名を表示する	35

マルチ CD

マルチ CD で CD を聞く

(別売のマルチ CD を組み合わせたときのみ)

1	モードの切り換えかた	36
2	繰り返し再生する	37
3	違う曲順で再生する	37
4	曲 / ディスクを探す	38
5	聞きたい曲を指定する	39
6	指定した曲だけ再生する	40
7	指定した曲を 1 曲ずつ解除する	40
8	指定した曲を CD ごとに解除する	41
9	再生を一時停止する	41
10	CD のタイトルを入力する	42
11	タイトルやアーティスト名を 表示させる	44
12	タイトルを見て 聞きたい CD を探す	45
13	音質を調節する	46

内蔵 DSP で音を調節する

1	音質調整	48
2	オーディオ・DSP 調整メニューの切り換えかた	49
3	前後左右の音量バランスを調節する	50
4	小さな音量でも聞きやすくする	50
5	サブウーファーを使う	51
6	サブウーファーの ON/OFF と位相切り換え	51
7	サブウーファーのカットオフ周波数選択とレベル調節	52
8	サブウーファーのスロープ切り換え	52
9	低い音を出力しないようにする	53
10	各ソースの音量を揃える	55
11	イコライザーカーブを選ぶ	55
12	イコライザーカーブに簡単な補正を加える	56
13	イコライザーカーブを細かく調節する	57
14	音場の中心で聞く	58
15	タイムアライメントを切り換える	59
16	タイムアライメントを調節する	60
17	オートイコライザーを ON/OFF する	61
18	イメージにあった演奏会場を再現する	62
19	騒音に合わせて音量を自動で変化させる	63
20	オートタイムアライメント & イコライジングを行う前に	64
21	オートタイムアライメント & イコライジングを行う	66

すぐに使いたいときは、
ここをお読みください。

ここだけ読めば
すぐ使えます

はじめに

内蔵 MD で MD を聞く

ラジオを聞く

マルチ CD で CD を聞く

内蔵 DSP で音を調節する

別売 DSP で音を調節する

初期設定

便利な機能

その他 (付録)

目次

音の調節 2

別売DSPで音を調節する

1	音質調整	68
2	オーディオ・DSP調整メニューの切り換えかた	69
3	前後左右の音量バランスを調節する	70
4	接続したスピーカーを設定する	70
5	クロスオーバー周波数を設定する	72
6	スピーカーレベルを調節する	73
7	テストトーンでスピーカーレベルを調節する	74
8	タイムアライメントを切り換える	75
9	タイムアライメントを調節する	76
10	ダウンミックス機能を使う	77
11	ダイナミックレンジコントロールを使う	78
12	オリジナルの音声で聞く	78
13	イコライザーカーブを選ぶ	79
14	3バンドパラメトリックイコライザーを調節する	80
15	音場の中心で聞く	81
16	ドルビープロロジックIIを使う	82
17	イメージにあった演奏会場を再現する	84
18	オートイコライザーをON/OFFする	85
19	オートタイムアライメント&イコライジングを行う前に	86
20	オートタイムアライメント&イコライジングを行う	88

初期設定

初期設定

1	本機をより便利に使うために	90
2	初期設定メニューの切り換えかた	90
3	時計を合わせる	91
4	外部機器を使う	91
5	夜間のディスプレイの明るさを調節する	92
6	コントラストを変えて画面を見やすくする	92
7	RCA外部出力から出力される信号を選ぶ	93
8	音の歪みを補正する	93
9	ミュート/アッテネートを切り換える	94
10	タイトルのスクロール方法を変える	95
11	オーディオ設定をリセットする	96

便利な機能

便利な機能

1	その他の便利な機能について	98
2	時計を表示する	98
3	交通情報を受信する	99
4	瞬時に音量を小さくする	99
5	エンタテインメントを切り換える	100
6	外部機器に合わせてデジタル接続に切り換える	100
7	外部機器の名称を入力する	101

C O N T E N T S

その他

その他 (付録)

1	MDの正しい使いかた	102
2	故障かな?と思ったら	104
3	こんなメッセージが表示されたら	107
4	保証書とアフターサービス	109
5	おもな仕様	110

すぐに使いたいときは、
ここをお読みください。

すぐ使えます
ここだけ読めば

はじめに

内蔵MDでMDを聞く

ラジオを聞く

マルチCDでCDを聞く

内蔵DSPで音を調節する

別売DSPで音を調節する

初期設定

便利な機能

その他 (付録)

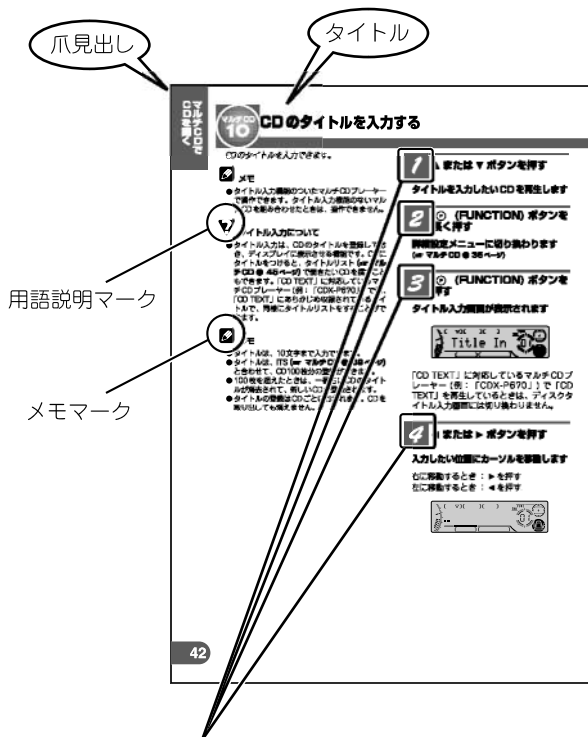
本書のみかた

本書は、MDやラジオ、マルチCDなどの基本的な操作を説明する「ここだけ読めばすぐ使えます」の項目と、ファンクションボタン／オーディオボタン／DSPボタンを使って操作する項目に分かれています。

お買いあげ後、まずお使いになりたいときは「ここだけ読めばすぐ使えます」の項目をお読みください。MDやラジオ、マルチCDなどの操作の流れに沿って説明しています。便利な機能を使いたいときや、音質を調整したいときなどは、「内蔵MDでMDを聞く」、「ラジオを聞く」や「内蔵DSPで音を調節する」などの項目をお読みください。知りたい項目がすぐに分かるようになっています。

ページ内の構成

本書は、操作方法などが分からなくなった場合に、知りたい項目を探しやすいように構成されています。



操作手順の順番を示す番号



注意マーク

安全のために、必ず守っていただきたいことです。操作を行うときに注意していただきたいことや、本機の性能を維持するうえで注意していただきたいことについて説明します。



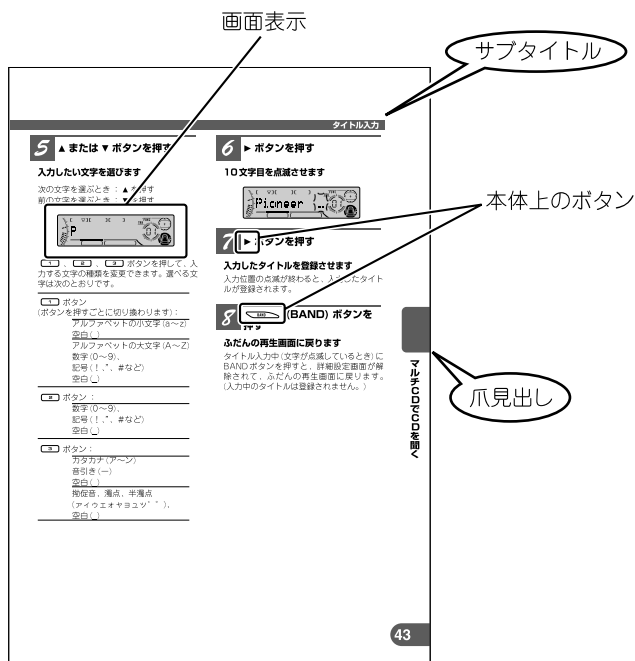
用語説明マーク

本機を使用する上で、知っておくと便利な用語などについて説明します。



メモマーク

操作をするうえで注意すべきことや操作上のヒント、便利な使い方などについて説明します。



本機の特長

本機「MEH-P070」は、洗練されたスタイルに数々の高音質機能を搭載した、MD / チューナー・DSPメインユニットです。

本機「MEH-P070」は、操作性に優れたデザインを採用、通常のMDやラジオの操作だけでなく、さまざまな機能を簡単な操作で行うことができます。

同時に、マルチカラーディスプレイの採用により、優れた視認性とインターフェースを提供、車室内を彩ります。

本機「MEH-P070」に搭載された、「オートタイムアライメント&イコライジング (Auto TA&EQ)」およびDSPによって、車内を最適な音響空間にします。

本機「MEH-P070」と、DSPユニット「DEQ-P9 (別売)」およびバイオニア製DVDプレーヤー (別売) を組み合わせることで、手軽に5.1chマルチチャンネルシステムを構築できます。



DSPとは

DSPは、「Digital Signal Processor」の略です。DSPを使うことで、細かな音の調節が可能になります。

ドルビープロロジックIIについて

当社の5.1ch対応・DSPユニット (「DEQ-P9」) を組み合わせると、5.1チャンネルで収録された映画 / 音楽のDVDを臨場感豊かに再現することができます。



Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

本機のおもな機能

MD プレーヤー

- MDLP (長時間録音MD) 再生対応
(※ はじめに 3 12 ページ)
- MDグループディスク再生対応
(※ はじめに 3 12 ページ)
- 再生中の曲やグループを繰り返し再生する「リピート」機能 (※ 内蔵MD 3 29 ページ)
- いつもと違う曲順で再生する「ランダム」機能 (※ 内蔵MD 4 29 ページ)
- 全曲の最初の10秒ずつを再生して曲を探す「スキャン」機能
(※ 内蔵MD 5 30 ページ)
- 再生を一時停止する「ポーズ」機能
(※ 内蔵MD 6 31 ページ)
- MDに収録されたタイトルを表示
(※ 内蔵MD 1 28 ページ)

FM / AM ラジオ

- お好みの放送局を本体に登録する「プリセットメモリー」機能
(※ ラジオ 1 32 ページ)
- 複数の放送局を一度に登録する「BSM (ベストステーションズメモリー)」機能
(※ ラジオ 2 32 ページ)
- 放送局名表示 (※ ラジオ 5 35 ページ)

マルチCD プレーヤー

(別売のマルチCD プレーヤー接続時)

- 再生中の曲やディスクを繰り返し再生する
「リピート」機能 (※ マルチCD 2 37 ページ)
- いつもと違う順で再生する
「ランダム」機能 (※ マルチCD 3 37 ページ)
- 最初の10秒ずつを再生して曲を探す
「スキャン」機能 (※ マルチCD 4 38 ページ)
- 再生を一時停止する「ポーズ」機能
(※ マルチCD 9 41 ページ)
- 聞きたい曲だけ再生する「ITS再生」機能
(※ マルチCD 6 40 ページ)
- CDにタイトルを入力する「タイトル入力」
機能 (※ マルチCD a 42 ページ)
- ディスクに入力したタイトルを表示
(※ マルチCD b 44 ページ)
- 「CD TEXT」に登録されたタイトルを表示
(※ マルチCD b 44 ページ)
- タイトルを見て曲/ディスクを探す
「タイトルリスト」機能
(※ マルチCD c 45 ページ)
- 音質を調整する「COMP切り換え」機能
(※ マルチCD d 46 ページ)

内蔵DSP

- 音量バランスを調節する
「フェーダー/バランス」機能
(※ 音の調節 1 3 50 ページ)
- 音にメリハリをつける
「ラウドネス」機能
(※ 音の調節 1 4 50 ページ)
- サブウーファースのコントロール
(※ 音の調節 1 5 51 ページ)
- 各ソースの音量をそろえる「SLA」機能
(※ 音の調節 1 a 55 ページ)
- 簡単な操作で車内音場を計測、最適化する
「オートタイムアライメント・イコライザー
(Auto TA&EQ)」機能
(※ 音の調節 1 k 64 ページ)
- きめ細かい音質調整を実現する
「イコライザー詳細調整」機能
(※ 音の調節 1 d 57 ページ)
- 音場の中心で聞く「リスニングポジション
選択」機能 (※ 音の調節 1 e 58 ページ)
- 演奏会場を再現する「SFC/BBE」機能

(※ 音の調節 1 i 62 ページ)

- 騒音に合わせて自動的に音量を調節する
「ASL」機能 (※ 音の調節 1 j 63 ページ)

別売DSP (「DEQ-P9」接続時)

- 音量バランスを調節する
「フェーダー/バランス」機能
(※ 音の調節 2 3 70 ページ)
- 簡単な操作で車内音場を計測、最適化する
「オートタイムアライメント&イコライジン
グ (Auto TA&EQ)」機能
(※ 音の調節 2 j 86 ページ)
- きめ細かい音質調整を実現する
「3バンドパラメトリックイコライザー」機能
(※ 音の調節 2 e 80 ページ)
- 演奏会場を再現する「SFC」機能
(※ 音の調節 2 h 84 ページ)
- リスニングポジション設定
(※ 音の調節 2 f 81 ページ)
- ドルビープロロジックII設定
(※ 音の調節 2 g 82 ページ)
- ダイナミックレンジコントロール機能
(※ 音の調節 2 b 78 ページ)
- ダウンミックス機能
(※ 音の調節 2 a 77 ページ)

その他の機能

- 時計表示 (※ 便利な機能 2 98 ページ)
- 交通情報受信 (※ 便利な機能 3 99 ページ)
- AUX (外部機器) 接続対応
(※ 初期設定 4 91 ページ)
- リモートコントローラー対応
(※ はじめに 9 19 ページ)

はじめに

3

ご使用になる前に

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。

また、本機が電源 OFF のときでも、車のエンジンを止めた状態で長時間、車のイグニッションスイッチを ON (または ACC) にしないでください。バッテリーが上がる恐れがあります。

50 枚型マルチ CD プレーヤーの使用について

本機に、50 枚型マルチ CD プレーヤーを接続できます。ただし、本機では、50 枚型マルチ CD プレーヤー特有の機能の操作はできません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能だけです。また、タイトルリストには切り換わりません。

長時間録音された MD の再生について

本機は、長時間録音された MD (MDLP) の再生に対応しています。



MDLP について

MDLP とは、「Mini Disc Long-Play mode」の略です。MD へ記録するデータの圧縮率を高め、記録可能時間を 2 倍または 4 倍に拡張する記録方式です。

MD グループディスク再生について

MD に収録されている曲を「グループ」として登録したディスクを「MD グループディスク」と呼びます。本機は、MD グループディスクの再生に対応しています。MD グループディスクを再生している場合、グループ名を表示したり、お好みのグループだけを再生したりすることができます。

はじめに

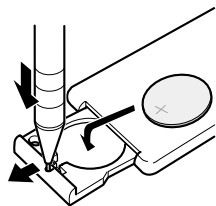
4

リモコンの準備

付属のリモコンを使うための準備です。

リモコンに電池を入れる

リモコンを裏返し、電池ホルダーを取り出して、リチウム電池 (CR2025) を ⊕ 側を上にしてセットします。



リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。



リモコンの取り扱い上のご注意

リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障する恐れがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。

本体に直射日光が当たっていると、リモコンを操作できないときがあります。このようなときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。

付属の電池は充電できません。

リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。

電池の液もれが起こったときは、内部に付いた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。

不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示 (条例) に従って処理してください。

フロントパネルの取り外しかた / 取り付けかた

本機のフロントパネル部は、音響特性測定用マイクを接続するために取り外すことができます（デタッチャブル機構）。

フロントパネルの取り外しかた

1

OPEN

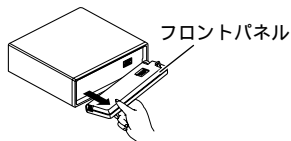
ボタンを押す

フロントパネルを開けます

2

フロントパネルの左側を持って
フロントパネルを取り外す

フロントパネルが外れます



ご注意

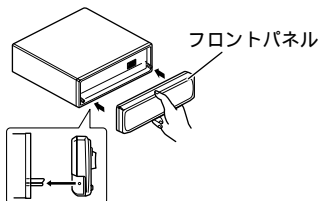
Auto TA&EQ (※音の調節 1 k 64 ページ) を行うときは、フロントパネルを取り外した後に音響特性測定用マイクをマイク挿入口に差し込んでください。
フロントパネルを取り外した状態でも音声は出力されますが、操作を行うことができません。本機を操作するときは、必ずフロントパネルを取り付けて行ってください。
本機で Auto TA&EQ を行うとき以外は、フロントパネルを固定してお使いください。(※取付説明書)

フロントパネルの取り付けかた

1

フロントパネルを
本体に押しつける

フロントパネルの下部を、本体のリリース部と合わせて押しつけると、フロントパネルが付きます



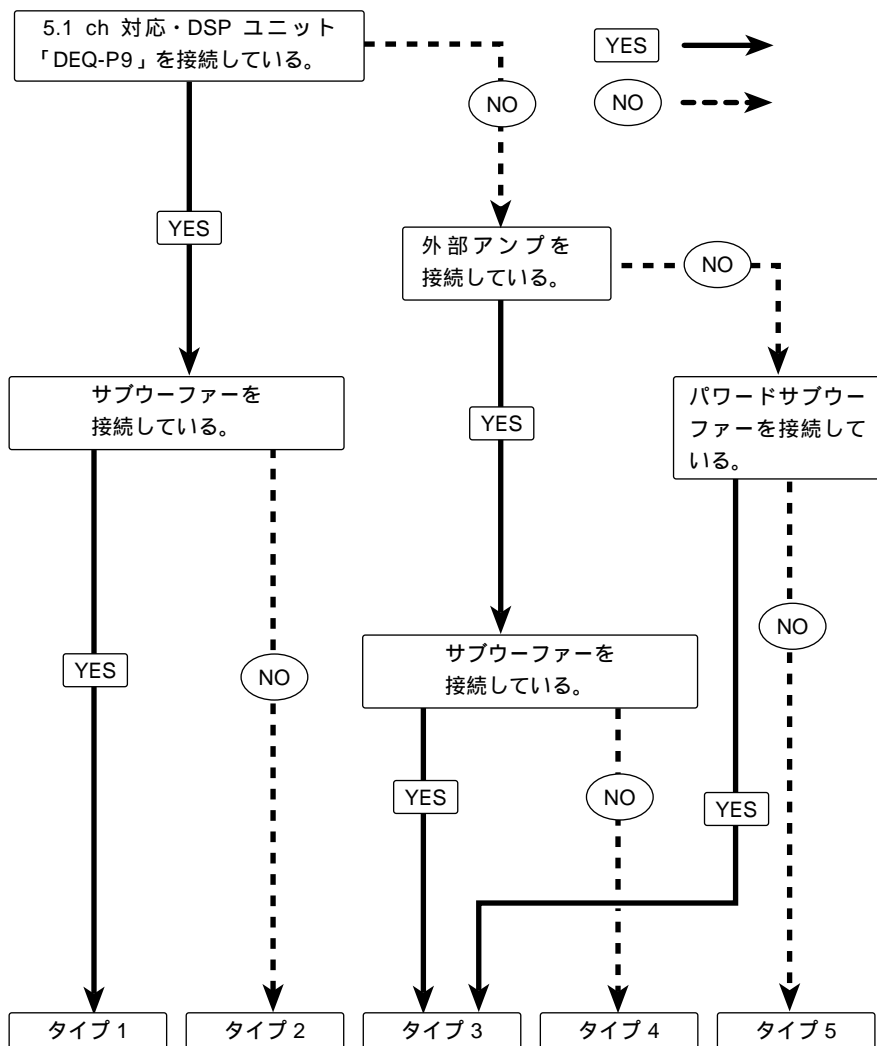
フロントパネルの取り扱い上のご注意

フロントパネルを無理に引いて取り外さないでください。
取り外し、取り付けの際に、ディスプレイやボタンを強く持たないでください。
落とす、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。故障することがあります。
分解しないでください。
ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。
汚れたときは、きれいな乾いた布で拭いてください。その場合に、フロントパネルおよび本体の端子部を触らないようにしてください。接触不良の原因となることがあります。

サブウーファーの設定について

本機にサブウーファーを組み合わせている場合、本機を使ってサブウーファーの設定ができます。

サブウーファーの接続方法やシステムによって、サブウーファーの設定方法は大きく異なります。次の表に従い、お手持ちのシステムに合わせて、正しいサブウーファーの設定を行ってください。



タイプ 1

入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。パワードサブウーファーの場合は、遮断周波数を最も高い値に設定する。

- 1.スピーカー設定モードで、スピーカーの有無を設定する（SWはONに設定）
(音の調節 2 4 70 ページ)
- 2.リスニングポジションをF/LまたはF/Rに設定する
(音の調節 2 f 81 ページ)
- 3.Auto TA&EQを行う
(音の調節 2 j 86 ページ)
- 4.微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う (音の調節 2 1 68 ページ)

タイプ 2

- 1.スピーカー設定モードで、スピーカーの有無を設定する（SWはOFFに設定）
(音の調節 2 4 70 ページ)
- 2.リスニングポジションをF/LまたはF/Rに設定する
(音の調節 2 f 81 ページ)
- 3.Auto TA&EQを行う
(音の調節 2 j 86 ページ)
- 4.微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う (音の調節 2 1 68 ページ)

タイプ 3

入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。パワードサブウーファーの場合は、遮断周波数を最も高い値に設定する。

- 1.初期設定モードで、RCA出力設定をSWにする
(初期設定 7 93 ページ)
- 2.リスニングポジションをF/LまたはF/Rに設定する
(音の調節 1 e 58 ページ)
- 3.Auto TA&EQを行う
(音の調節 1 k 64 ページ)
- 4.微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う (音の調節 1 1 48 ページ)

タイプ 4

入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。

- 1.初期設定モードで、RCA出力設定をRearにする
(初期設定 7 93 ページ)
- 2.リスニングポジションをF/LまたはF/Rに設定する
(音の調節 1 e 58 ページ)
- 3.Auto TA&EQを行う
(音の調節 1 k 64 ページ)
- 4.微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う (音の調節 1 1 48 ページ)

タイプ 5

- 1.初期設定モードで、RCA出力の設定をSWにする
(初期設定 7 93 ページ)
- 2.リスニングポジションをF/LまたはF/Rに設定する
(音の調節 1 e 58 ページ)
- 3.Auto TA&EQを行う
(音の調節 1 k 64 ページ)
- 4.微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う (音の調節 1 1 48 ページ)

5.1ch 対応・DSP ユニットの使用について

本機に、5.1ch 対応・DSP ユニット「DEQ-P9」を接続した場合、本機に内蔵のオーディオ調整機能の代わりに、5.1ch・DSP ユニット「DEQ-P9」内蔵のオーディオ・DSP 調整機能が使用できます。

本機に内蔵のオーディオ調整機能で利用できる機能と、5.1ch 対応・DSP ユニット「DEQ-P9」を接続したときに利用できる機能は次の対応表のとおりです。

	内蔵 DSP	DEQ-P9
音量バランス調節		
タイムアライメント選択		
タイムアライメント調節		
ラウドネス		×
イコライザー		
イコライザーニュアンス調節		×
サブウーファー設定		×
サブウーファー調節		×
サブウーファースロープ調節		×
フロントハイパスフィルター設定		×
フロントハイパスフィルター調節		×
リアハイパスフィルター設定		×
リアハイパスフィルター調節		×
SFC		
ASL		×
SLA		
リスニングポジション		
ドルビープロロジック II	×	
ドルビープロロジック II ミュージックモード調節	×	
ダウンミックス	×	
DRC	×	
ダイレクト	×	
オートイコライザー選択		
スピーカー設定	×	
クロスオーバー周波数設定	×	
スピーカーレベル設定	×	
テストトーン	×	
3 バンドパラメトリックイコライザー	×	
オートタイムアライメント & イコライジング		

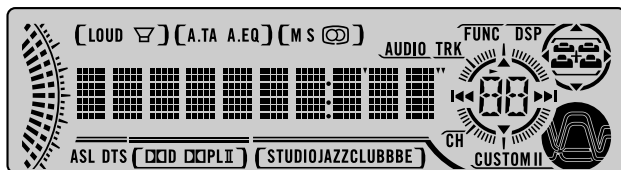


メモ

効果的に音の調節を行うための順序は、「音質調整 (E3) 音の調整 1 1 4 8 ページ) または (E3) 音の調整 2 1 6 8 ページ)」をご覧ください。

操作ガイド（サイバーサイン）について

本機のディスプレイには、操作ガイド（サイバーサイン）が表示されます。操作の誘導を行いますので、操作に迷うことはありません。



動作可能なボタンの操作が表示されます。

表示の例

内 容



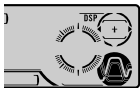
a/b/c/d ボタンを押して操作できます。



a/b ボタンを押して操作できます。
また、FUNCTION ボタンを押して機能を切り換えることができます。

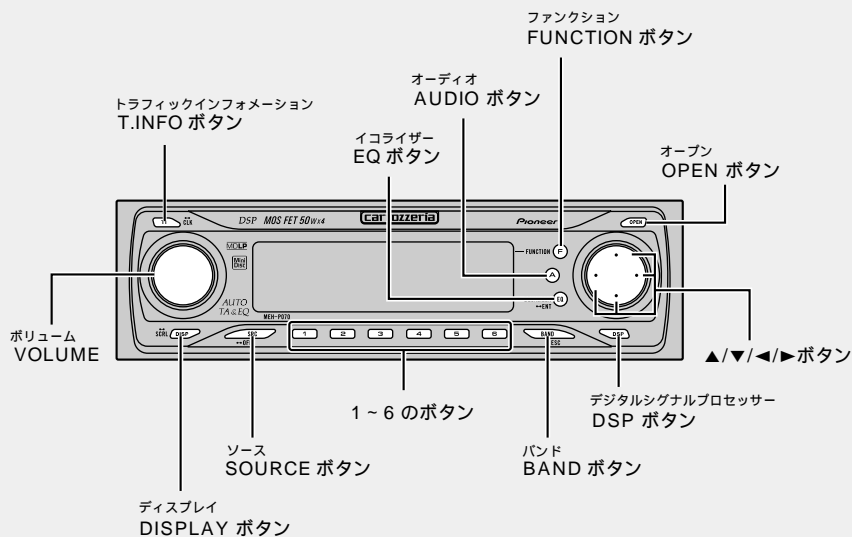


a/b/c/d ボタンを押して操作できます。
また、AUDIO ボタンを押して機能を切り換えることができます。

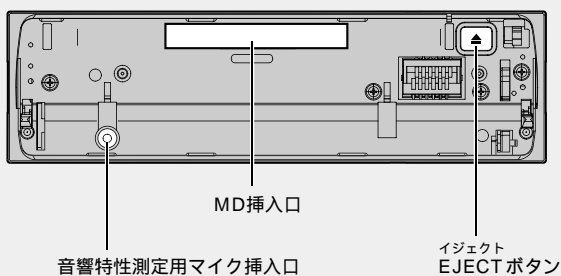


c/d ボタンを押して操作できます。
また、DSP ボタンを押して機能を切り換えることができます。

本体 (クローズ時)



本体 (オープン時)

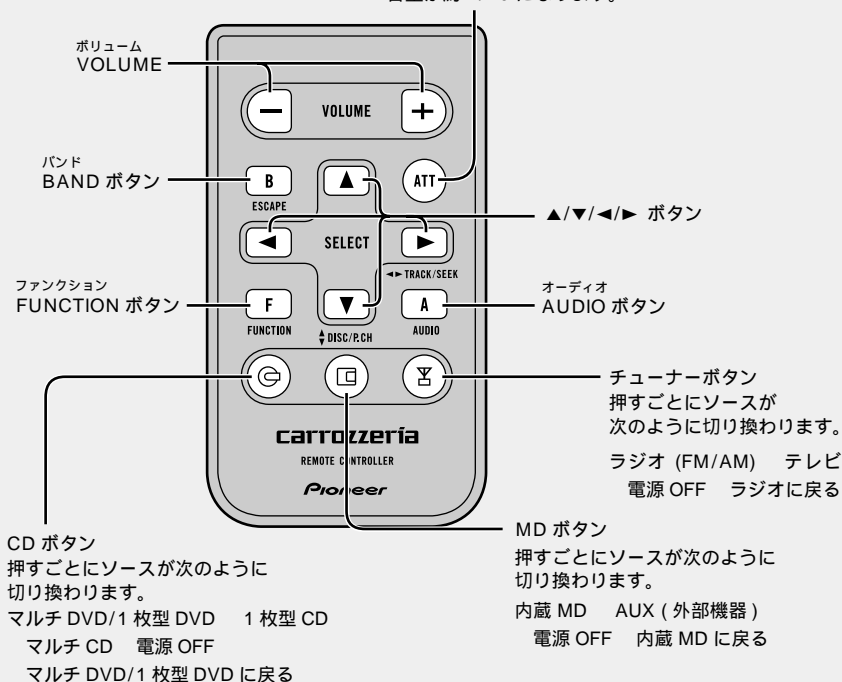


リモコン

本体と同じまへのボタンは、本体のボタンと同じ働きをします。

ATT ボタンは、リモコンにだけ付いているボタンです。

アッテネーター
ATT ボタン (E3) 便利な機能 4 99 ページ)
押すごとにアッテネーターが ON/OFF
します。アッテネーターが ON のときは、
音量が約 1/10 になります。



メモ

別売のステアリングリモートコントロールユニット「CD-SR100」(以下、ステアリングリモコン)で本機を操作することもできます。ただし、この場合は、一部リモコンでは操作できない機能があります。ステアリングリモコンの操作のしかたや取り扱いについては、ステアリングリモコンの説明書をお読みください。

ここだけで


1

基本的な操作

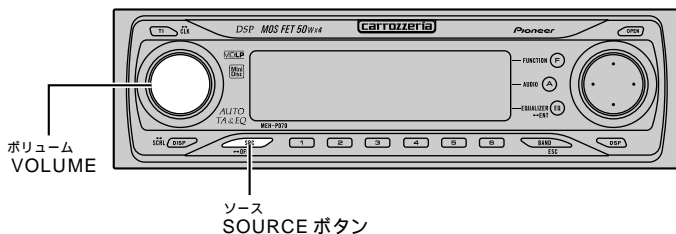
電源を入れる / 切る

ソース切り換え

ここだけの操作で、本機を使用することができます。


使うボタンは、 (SOURCE) と VOLUME の2つです。

この操作で使用するボタン





1

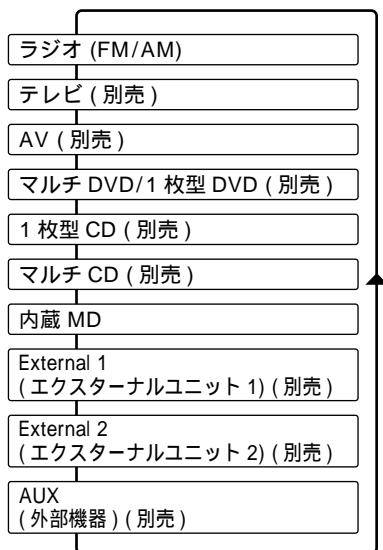
電源を ON にする

 (SOURCE) ボタンを押す
本機の電源がONになります。

2

ソースを切り換える

 (SOURCE) ボタンを押す
 ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



3 音量を調節する

VOLUME を押してから回す
もう一度押すと、元に戻ります。

右回し：大きくするとき

左回し：小さくするとき

音量は、0～40の範囲で調節できます。
約4秒間、音量が表示されます。



メモ

接続していないソースには切り換わりません。
ディスクがセットされていないときは、その
ソースには切り換わりません。

AUX (外部機器) の設定 (※初期設定 4 91 ページ) を ON にしないと、AUX には切り換わりません。

本機の青リード線 (オートアンテナ) に車側の
オートアンテナコントロール端子を接続してい
る場合、ソースをラジオにすると車に装備さ
れているオートアンテナがのびます。

AV ソースを持つユニット (「AVX-P7」など)
を本機に接続して AV ソースを設定している場
合に、AV 入力ソースに切り換えることができ
ます。

4 電源を切る

 (SOURCE) ボタンを
1 秒以上押す

本機の電源が切れます。



External (エクスターナルユニット) とは

External (エクスターナルユニット) とは、本
機がソースとして対応していないパイオニア製
品 (将来発売される製品など) の基本的な機能
をコントロールできるように用意している特別
なソースです。本機では、2 台の External (エ
クスターナルユニット) をコントロールするこ
とができますが、External1、External2 のど
ちらに切り換えても “External” が表示されま
す。2 台の External (エクスターナルユニット)
を接続した場合、本機によって、External1、
External2 が自動的に設定されます。

テレビ、1 枚型 DVD、マルチ DVD、 AV を接続したときは

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書で
ご覧ください。

組み合わせ例

ソース	製品の型番
1 枚型 DVD	「SDV-P7」
マルチ DVD	「XDV-P9II」
テレビ・AV	「AVX-P7」

上記の製品の取扱説明書では、本機以外の
製品を例にして、操作説明が行われている
場合があります。その製品と対応している
ボタンで操作を行ってください。

マルチ MD を接続したときは

本機は、マルチ MD (例「MD-P100II」)
をエクスターナルユニットとして操作でき
ます。操作のしかたは、マルチ MD の取扱
説明書の「メインユニット 3」を参照して
ください。

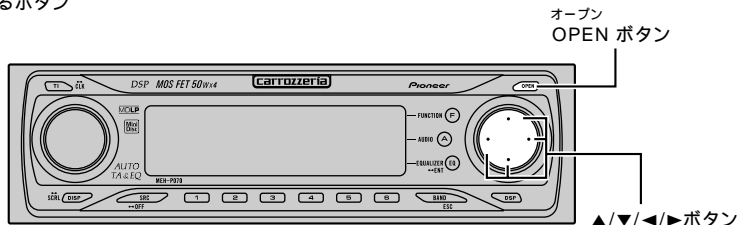
ここだけで 2 内蔵 MD のふだんの操作

MD を再生する

ここだけの操作で、MDを再生することができます。

使うボタンは、**OPEN** (OPEN)、a/b/c/d、**EJECT** の6つです。

この操作で使用するボタン



1 **OPEN** (OPEN) ボタンを押す

フロントパネルが開きます

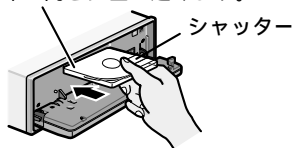
3 フロントパネルを閉める

MD の再生が始まります

2 ディスクを挿入口に差し込む

自動的に収納されます

矢印の向きに差し込みます。



注意

MDのシャッターが閉まっていることを確認してから差し込んでください。
MDはタイトル面を上にします。
MDは、必ずディスクに記載されている矢印の向きに差し込んでください。向きが違くと、取り出せなくなることがあります。
MD挿入口には、MD以外のものを入れないでください。故障の原因となります。
MDを挿入すると、本機はMDからファイル形式などの情報を読みとります。この間、ディスプレイは「TOC Read」が表示されます。

4 a または b ボタンを押す

グループが選べます
(MD グループディスク再生時)

次のグループを選ぶ : a を押す
前のグループを選ぶ : b を押す

5 c または d ボタンを押す

聞きたい曲を選ぶとき

次の曲を選ぶ : d を押す
前の曲を選ぶ : c を押す

早送り / 早戻しをするとき

早送り : d を長く押す
早戻し : c を長く押す

グループを選ぶ

曲を選ぶ

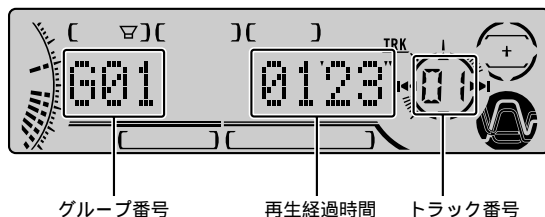
早送り / 早戻しをする

MD を取り出す

グループサーチ / トラックサーチ / 早送り/早戻し

ここだけ読めば
すぐ使えます

画面表示例



6 他のソースに切り換える か、電源をオフにする

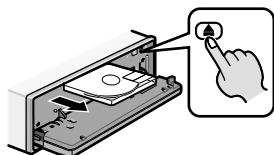
再生が終わります

7 (OPEN) ボタン を押す

フロントパネルが開きます

8 (EJECT) ボタンを 押す

ディスクが出てきます



注意

出てきたディスクはすぐに取り出して保管してください。MD 挿入口からディスクを出したまま走行すると危険です。

9 フロントパネルを 閉める



注意

MD 挿入口にゴミやホコリが入ることを防ぐために、フロントパネルを開けてください。



知っていると便利

MD をセットしたまま電源を OFF にしたり、他のソース (ラジオやマルチ CD など) に切り換えることもできます。




(E) ここだけで 120 ページ

ここだけで 3 ラジオのふだんの操作

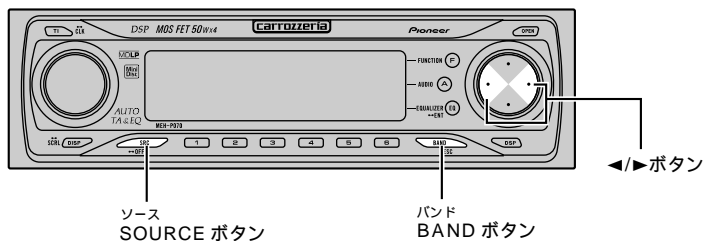
バンドを選ぶ

放送局を選ぶ

ここだけの操作で、ラジオを聞くことができます。

使うボタンは、 (SOURCE)、 (BAND)、 の4つです。

この操作で使用するボタン



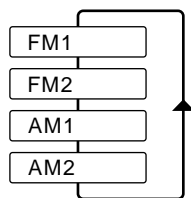
1 (SOURCE) ボタンを押す

ソースがラジオになるまで押します


2 (BAND) ボタン を押す


ボタンを押すごとに、バンドが
切り換わります

切り換わる順番は次のとおりです。

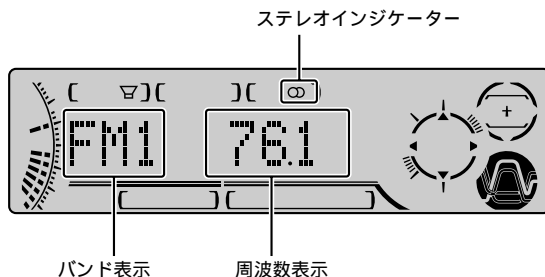


知っているとも便利

バンドごとに放送局を6局ずつ登録できます。
( ラジオ 1 2 3 2 ページ)

バンド1とバンド2を切り換えて使うことで、
より多くの放送局を登録できます。例えば、
バンド1にはふだんよく聞く放送局を登録して
おきます。旅行などで、どんな放送局がある
のか知らない地域に行ったときに、バンド2
に切り換えてBSM ( ラジオ 2 3 2 ページ) を
使うと、バンド1に登録した放送局はそのまま
使用できるので便利です。

画面表示例



3 c または d ボタンを押す

放送局が選べます

手動で選ぶとき (手動選局)

高い周波数の放送局を選ぶ : d を短く押す

低い周波数の放送局を選ぶ : c を短く押す

自動で選ぶとき (自動選局)

高い周波数の放送局を自動で選ぶ

: d を長く押して離す

低い周波数の放送局を自動で選ぶ

: c を長く押して離す



知っていると便利

0.5秒以上押し続けている間、途中の放送局をとばすことができます。ボタンを離れたところから自動選局を開始します。

電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をおすすめします。

4 他のソースに切り換えるか、電源をオフにする


ラジオの受信が終わります

ここだけで

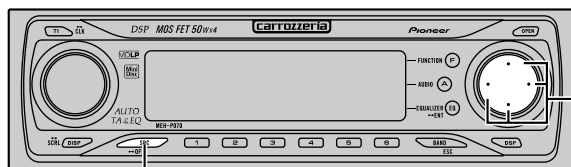
4

マルチ CD のふだんの操作

CD を選ぶ

ここだけの操作で、別売のマルチ CD プレーヤーで CD を聞くことができます。
使うボタンは、 (SOURCE)、a/b/c/d の 5 つです。

この操作で使用するボタン



ソース
SOURCE ボタン

▲/▼/◀/▶ ボタン

1

(SOURCE) ボタンを押す

ソースがマルチ CD になるまで
押します



注意

マルチ CD が準備動作 (CD の有無の確認や CD の情報の読み込みなど) をしている場合があります。このとき、ソースをマルチ CD に切り換えると「READY」と表示されます。
マルチ CD 再生中にマルチ CD からマガジンを取り出すと、「NoMAGAZINE」と表示されます。

2

a または b ボタンを 押す

聞きたい CD が選べます

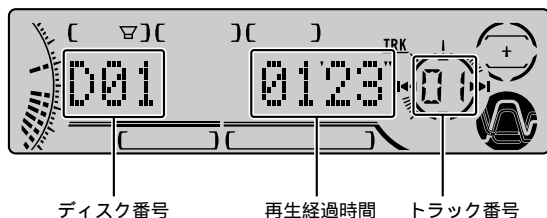
次の CD を選ぶ : a を押す
前の CD を選ぶ : b を押す



メモ

1 ~ 6 のボタンを押して、聞きたい CD にワンタッチで切り換えることもできます。
1 ~ 6 枚目のディスクを選びたいときは、1 ~ 6 のボタンを押してください。
12 枚型マルチ CD プレーヤーを接続している場合に、7 ~ 12 枚目のディスクを選びたいときは、1 ~ 6 のボタンを長く押してください。

画面表示例



3 cまたはd ボタンを押す

聞きたい曲を選ぶとき

次の曲を選ぶ : d を押す

前の曲を選ぶ : c を押す

早送り / 早戻しをするとき

早送り : d を長く押す

早戻し : c を長く押す

4 他のソースに切り換えるか、電源をオフにする

マルチCDの再生が終わります

内蔵MD
1

タイトルを表示させる

タイトル表示

グループタイトルやディスクタイトル、トラックタイトルなどを登録したディスクをセットしたときに、そのタイトルを表示させることができます。一度に10文字まで表示させることができます。また、隠れている文字を順にスクロールして表示させることもできます。



メモ

表示をタイトル表示に切り換えたときに、隠れているタイトルを自動的に1回スクロール表示します。
本機はカナ文字に対応していますので、カナやアルファベットの小文字がそのまま表示されます。タイトルが入力されていない場合は、表示が「No Data」になります。
本機では、MDの録音方法にかかわらず、トラックタイトルの先頭の「LP:」を表示しません。(長時間録音されたMDでは、トラックタイトルの先頭に「LP:」があらかじめ入力されていることがあります。)

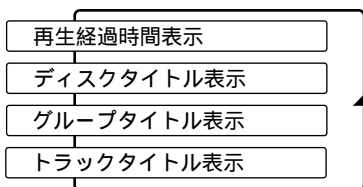
タイトルを表示させる

1

DISP

(DISPLAY) ボタンを押す

(DISP) (DISPLAY) ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります



MD グループディスクを再生しているときだけ表示されます。

隠れている文字を表示させる

1

DISP

(DISPLAY) ボタンを長く押す

隠れている文字が順に表示されます

内蔵MD
2

ファンクションモードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションボタンを押して機能を選びます。

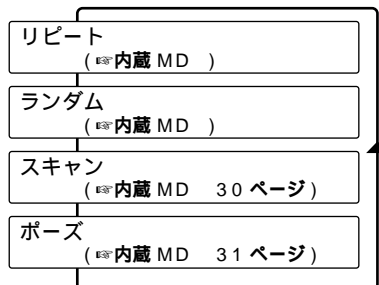
使いたい機能を選ぶ

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで操作します。

1

(F) (FUNCTION) ボタンを押す

(F) (FUNCTION) ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります



メモ



ふだんの再生画面に戻るときは、BAND ボタンを押します。(約30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)

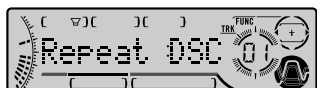
繰り返し再生する

リピート

今聞いている曲を繰り返し聞くことができます。内蔵 MD プレーヤーでグループディスクを再生しているときは、今聞いているグループを繰り返し聞くなど、再生する範囲を選べます。

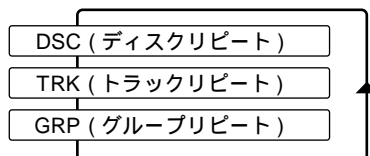
1 (F) (FUNCTION) ボタンを押す

画面に Repeat が表示されます
( 内蔵 MD )



2 c/d ボタンを押す

c または d ボタンを押すごとに、次の順序で、リピート再生する範囲が切り換わります



ディスクリピート：

今聞いている MD を繰り返し再生するときに選びます。

トラックリピート：

今聞いている曲を繰り返し再生するときに選びます。

グループリピート：



今聞いているグループを繰り返し再生するときに選びます。

違う曲順で再生する



ランダム

曲やグループを順不同 (ランダム) に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

1 ランダム再生する範囲を選んでおく

リピート ( 内蔵 MD ) で選んだ範囲でランダム再生されます

2 (F) (FUNCTION) ボタンを押す

画面に Random が表示されます
( 内蔵 MD )



3 a ボタンを押す

ランダム再生が ON になります

次の曲 (グループ) から、ランダムに再生します。

b ボタンを押すと、OFF になります。

4 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

3 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

曲 / グループを探す

スキャン

曲やグループの初めの部分だけを、約10秒ずつ再生できます。聞きたい曲やグループを探すときに便利です。

1 スキャン再生する範囲を選んでおく

リピート (E3 内蔵MD 29 ページ) で選んだ範囲でスキャン再生されます。

聞きたい曲を探すとき (トラックスキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。再生中のMDの全曲を、約10秒ずつ再生します。

グループディスク再生時は、再生範囲をグループに切り換えます。再生中のグループの全曲を、約10秒ずつ再生します。

聞きたいグループを探すとき (グループスキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。再生中のMDの全グループの1曲目を、約10秒ずつ再生します。

グループディスク以外のMDを再生しているときは、グループスキャン再生はできません。

4 聞きたい曲やグループが再生されたら、b ボタンを押す

スキャン再生がON になります

ふだんの再生画面に戻っていたら、まず手順2の操作を行ってもう一度スキャンを選びます。次に、b ボタンを押してください。スキャン再生がOFF になります。

5 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

スキャン再生を始めた曲 (グループ) まで戻るとスキャン再生は解除されます。

トラックリピート中にスキャン再生をON すると、再生範囲がグループ (またはディスク) リピートに切り換わり、スキャン再生します。

2 (F) (FUNCTION) ボタンを押す

画面に Scan が表示されます

(E3 内蔵CD 28 ページ)



3 a ボタンを押す

スキャン再生がON になります

曲やグループの初めの約10秒間が次々に再生されます。

スキャン再生を始めて約30秒たつと、自動的にふだんの再生画面に戻ります。

再生を一時停止する

ポーズ

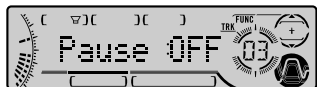
MDの再生を一時停止できます。

1

**(F) (FUNCTION) ボタンを
押す**

画面に **Pause** が表示されます

( 内蔵 CD ② 28 ページ)



2

a ボタンを押す

再生が一時停止されます

b ボタンを押すと、OFF になります。

3

**(BAND) ボタンを
押す**

ふだんの再生画面に戻ります

ラジオ
1放送局を1局ずつ
登録する


プリセットメモリー

1～6のボタンに、お好みの放送局を1局ずつ
手動で登録できます。

1

 (BAND) ボタンを
押す

登録するバンドを選びます

( ここだけで④ 24 ページ)

2

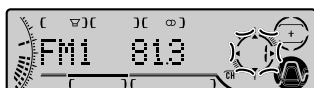
c/a ボタンを押す

登録させたい放送局を選びます

3

1 ~ 6 ボタンの1つを
を2秒以上押す


放送局を登録します



登録動作中に押したボタンの番号(登録番号)
が点滅します。登録が完了すると登録番号
の点滅が終わり、押したボタンに受信中の
放送局を受信します。



メモ

登録された放送局は、プリセットチューニング
( ラジオ④) で呼び出します。

ラジオ
2複数の放送局を
自動的に登録する


BSM

BSMとは、「Best Stations Memory (ベストステーションズメモリー)」の略です。受信状態の
良い放送局を探して、1～6のボタンに自動
的に登録する機能です。

1

 (BAND) ボタンを
押す

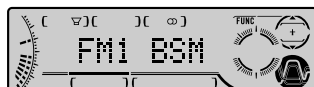
登録するバンドを選びます

( ここだけで④ 24 ページ)

2

(F) (FUNCTION) ボタンを
押す

BSM 設定画面が表示されます



3

a ボタンを押す

BSM が開始されます

登録動作中に「BSM」が点滅します。登録
が完了すると「BSM」の点滅が終わり、1
のボタンに登録した放送局を受信します。

b ボタンを押すと、OFFになります。


4

 (BAND) ボタンを
押す

ふだんの画面に戻ります



メモ

受信状態の良い放送局が、6局より少ないとき
は、前に登録した内容が残ることがあります。
登録された放送局は、プリセットチューニング
( ラジオ④) で呼び出します。

登録した放送局を呼び出す

プリセットチューニング

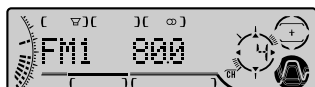
プリセットメモリー (ラジオ①) や BSM
(ラジオ②) で登録した内容は、簡単に呼び出すことができます。

登録した放送局を
直接呼び出すとき1 BAND ボタンを
押す

登録したバンドを選びます
(ここだけで 24 ページ)

2 1 ~ 6 ボタンの 1 つを
押す

登録した放送局を直接呼び出します

登録した放送局を
順番に呼び出すとき1 BAND ボタンを
押す

登録したバンドを選びます
(ここだけで 24 ページ)

2 a/b ボタンを押す

登録した放送局を順番に呼び出します



ラジオ
4

放送局名を変更する

放送局名変更

受信している周波数に合わせて、放送局名を変更することができます。



放送局名について

同じ周波数でも、地域によって受信する放送局は異なることがあります。表示されている放送局名が、受信している放送局と異なる場合、放送局名を変更することができます。



メモ

本機に登録されていない放送局名は選べません。

1

実際の放送局名と表示が異なる放送局を受信する

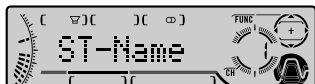
(E) ここだけで ③ 24 ページ)

現在受信している周波数の放送局名だけを変更できます。別の周波数の放送局名を変更したい場合、その周波数を受信してください。

2

(F) (FUNCTION) ボタンを長く押す

放送局名選択画面が表示されます



3

c/d ボタンを押す

放送局名を選びます

次の放送局名を選ぶ：d を押す

前の放送局名を選ぶ：c を押す



選択中は、受信中の周波数に該当する放送局名が点滅します。

4

a ボタンを押す

放送局名を変更します

5

BAND ボタンを押す

ふだんの画面に戻ります



メモ

選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていない場合、「No Data」が表示されます。

放送局名を表示したくない場合は、全て空白()を選んでください。

パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCD (例：「CDX-FM675」) をお使いの場合は、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を「FM M-CD」に変更して表示できます。パイオニア製のTVをFMモジュレーターでお使いの場合は、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を「FM TVsound」に変更して表示できます。

放送局名を表示する

放送局名表示

受信周波数以外に、放送局名変更で変更した放送局名などを表示できます。

1

DISP

(DISPLAY) ボタンを押す

DISP (DISPLAY) ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります

受信周波数表示

放送局名表示

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションボタンを押して機能を選びます。

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで操作します。

1 (F) (FUNCTION) ボタンを押す

(F) (FUNCTION) ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります



メモ

ふだんの再生画面に戻るときは、BAND ボタンを押します。(約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)

詳細設定メニューの切り換えかた

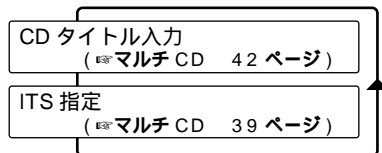
「CD タイトル入力」などの便利な機能を使うときは、詳細設定メニューで操作します。

1 (F) (FUNCTION) ボタンを長く押す

詳細設定メニューに切り換わります

2 (F) (FUNCTION) ボタンを押す

(F) (FUNCTION) ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります



メモ


ふだんの再生画面に戻るときは、BAND ボタンを押します。

マルチCD 2 繰り返し再生する

リピート

今聞いている曲を繰り返し聞くことができます。また、今聞いているCDを繰り返し聞いたり、マルチCDプレーヤーにセットされている全てのCDを通して聞くなど、再生する範囲を選べます。

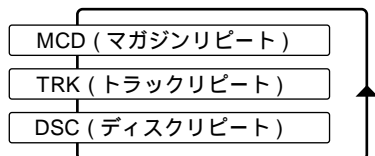
1 (F) (FUNCTION) ボタンを押す

画面に Repeat が表示されます
( マルチCD ①)



2 c または d ボタンを押す

c または d ボタンを押すごとに、次の順序で、リピート再生する範囲が切り換わります



マガジンリピート：

マルチCDプレーヤーにセットされている全てのCDを通して再生するときに選ばれます。(通常はこの設定にします。)

トラックリピート：

今聞いている曲を繰り返し再生するときに選ばれます。

ディスクリピート：

今聞いているCDを繰り返し再生するときに選ばれます。

3 (BAND) ボタンを押す


ふだんの再生画面に戻ります

マルチCD 3 違う曲順で再生する


ランダム

曲やディスクを順不同 (ランダム) に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

1 ランダム再生する範囲を選んでおく

リピート ( マルチCD ②) で選んだ範囲でランダム再生されます

2 (F) (FUNCTION) ボタンを押す

画面に Random が表示されます
( マルチCD ①)



3 a ボタンを押す

ランダム再生が ON になります

次の曲 (ディスク) から、ランダムに再生します。

b ボタンを押すと、OFF になります。

4 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

曲やディスクの初めの部分だけを、約10秒ずつ再生できます。聞きたい曲やディスクを探すときに便利です。

1 スキャン再生する範囲を選んでおく

リピート (E) マルチCD ② 37 ページ) で選んだ範囲でスキャン再生されます

聞きたい曲を探すとき (トラックスキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。再生中のCDの全曲を、約10秒ずつ再生します。

聞きたいディスクを探すとき (ディスクスキャン再生)

再生範囲をマガジンリピートに切り換えます。マルチCDプレーヤーの全ディスクの1曲目を、約10秒ずつ再生します。

2 (F) (FUNCTION) ボタンを押す

画面に Scan が表示されます
(E) マルチCD ① 36 ページ)



3 a ボタンを押す

スキャン再生がONになります

曲やディスクの初めの約10秒間が次々に再生されます。

スキャン再生を始めて約30秒たつと、自動的にふだんの再生画面に戻ります。

4 聞きたい曲やディスクが再生されたら、b ボタンを押す

スキャン再生がONになります

ふだんの再生画面に戻っていたら、まず手順2の操作を行ってもう一度スキャンを選びます。次に、b ボタンを押してください。スキャン再生がOFFになります。

5 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

スキャン再生を始めた曲 (ディスク) まで戻るとスキャン再生は解除されます。
トラックリピート中にスキャン再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わり、スキャン再生します。

指定した曲だけ再生する「ITS再生 (㊦ マルチCD 6 40 ページ)」ために、聞きたい曲だけをマルチCDであらかじめ指定しておきます。



ITSについて

ITSとは、「Instant Track Selection (インスタントトラックセレクション)」の略です。ITSは、聞きたい曲だけを指定しておき、それを再生する機能です。



メモ

曲の指定はCDごとに行われます。CDを入れ替えても、CDの指定は解除されません。CD1枚につき、99曲まで指定できます。(「CDX-P1250」、「CDX-P650」以前に発売されたマルチCDプレーヤーでは、指定できる曲数は24曲になります。) ITSは、タイトル入力 (㊦ マルチCD a 42 ページ) と合わせて、CD100枚分の指定ができます。100枚を超えたときは、一番古い指定内容が解除されて、新しいCDが指定されます。

1 a または b ボタンを押す

指定したいCDを再生します

(㊦ ここだけで 4 26 ページ)

2 ㊦ (FUNCTION) ボタンを長く押す

詳細設定メニューに切り換わります

(㊦ マルチCD 1 36 ページ)

3 ㊦ (FUNCTION) ボタンを押す

ITS 指定画面が表示されます



4 c または d ボタンを押す

指定したい曲を選びます

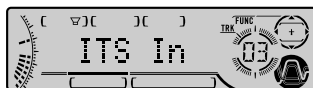
(㊦ ここだけで 4 27 ページ)



5 a ボタンを押す

選択した曲が指定されます

「ITS In」が2秒間表示され、指定が完了したことを知らせます。



6 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

マルチCD

6

指定した曲だけ 再生する

ITS 再生

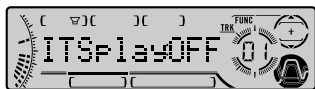
ITS 指定 (☞ マルチ CD 5 39 ページ) で指定した曲だけを再生できます。

1 ITS 再生する範囲を 選んでおく

リピート (☞ マルチ CD 2 37 ページ) で
選んだ範囲でITS 再生されます

2 (F) (FUNCTION) ボタンを 押す

画面にITSplay が表示されます
(☞ マルチ CD 1 36 ページ)



3 a ボタンを押す

ITS 再生が ON になります
ITS 指定された曲だけが再生されます。
b ボタンを押すと、OFF になります。

4 (BAND) ボタンを 押す

ふだんの再生画面に戻ります

マルチCD

7

指定した曲を 1 曲ずつ解除する

ITS 解除

ITS 指定 (☞ マルチ CD 5 39 ページ) で指定した曲を1 曲ずつ解除することができます。

1 ITS 再生を ON にしておく

(☞ マルチ CD 6)

2 c または d ボタンを押す

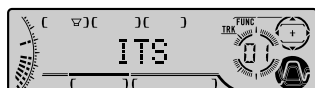
解除したい曲を再生します

3 (F) (FUNCTION) ボタンを 長く押す

詳細設定メニューに切り換わります
(☞ マルチ CD 1 36 ページ)

4 (F) (FUNCTION) ボタンを 押す

ITS 指定画面が表示されます



5 b ボタンを押す

再生していた曲が指定解除され、次に
指定されている曲が再生されます
現在の再生範囲に、ITS 指定された曲がなくな
った場合は、「ITS Empty」が2 秒間表示
されて、ITS 再生が OFF になります。

6 (BAND) ボタンを 押す

ふだんの再生画面に戻ります

指定した曲を
CDごとに解除する

ITS 解除

ITS 指定 (E 8 マルチCD 5 39 ページ) で指定した曲をCDごとに解除することができます。

1 ITS 再生を OFF にしておく

(E 6 マルチCD 6)

2 a または b ボタンを押す

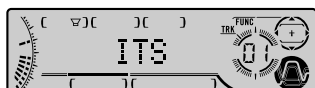
解除したいCDを再生します

3 (F) (FUNCTION) ボタンを
長く押す

詳細設定メニューに切り換わります
(E 8 マルチCD 1 36 ページ)

4 (F) (FUNCTION) ボタンを
押す

ITS 指定画面が表示されます



5 b ボタンを押す

再生していたCDが指定解除されます
「ITS Clear」が2秒間表示され、指定が解除されたことを知らせます。

6 (BAND) ボタンを
押す

ふだんの再生画面に戻ります

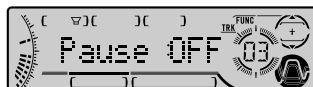
再生を一時停止する

ポーズ

CDの再生を一時停止できます。

1 (F) (FUNCTION) ボタンを
押す

画面に Pause が表示されます
(E 8 マルチCD 1 36 ページ)



2 a ボタンを押す

再生が一時停止されます
b ボタンを押すと、OFF になります。

3 (BAND) ボタンを
押す

ふだんの再生画面に戻ります

CDのタイトルを入力する

CDのタイトルを入力できます。



メモ

タイトル入力機能のついたマルチCDプレーヤーで操作できます。タイトル入力機能のないマルチCDを組み合わせたときは、操作できません。



タイトル入力について

タイトル入力は、CDのタイトルを登録しておき、ディスプレイに表示させる機能です。CDにタイトルをつけると、タイトルリスト (マルチCD 45 ページ) で聞きたいCDを探すこともできます。「CD TEXT」に対応しているマルチCDプレーヤー (例: 「CDX-P670」) では、「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルで、同様にタイトルリストをすることができません。



メモ

タイトルは、10文字まで入力できます。タイトルは、ITS (マルチCD 5 39 ページ) と合わせて、CD100枚分の登録ができます。100枚を超えたときは、一番古いCDのタイトルが消去されて、新しいCDが登録されます。タイトルの登録はCDごとに行われます。CDを取り出しても消えません。

1

a または b ボタンを押す

タイトルを入力したいCDを再生します

2

(F) (FUNCTION) ボタンを
長く押す

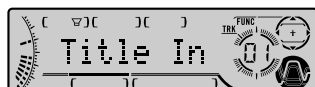
詳細設定メニューに切り換わります

(マルチCD 1 36 ページ)

3

(F) (FUNCTION) ボタンを
押す

タイトル入力画面が表示されます



「CD TEXT」に対応しているマルチCDプレーヤー (例: 「CDX-P670」) で「CD TEXT」を再生しているときは、ディスクタイトル入力画面には切り換わりません。

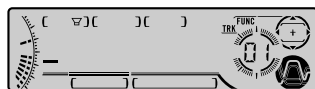
4

c または d ボタンを押す

入力したい位置にカーソルを移動します

右に移動するとき : d を押す

左に移動するとき : c を押す

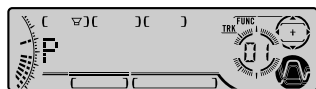


5 a または b ボタンを押す

入力したい文字を選びます

次の文字を選ぶとき : a を押す

前の文字を選ぶとき : b を押す



1、2、3 ボタンを押して、入力する文字の種類を変更できます。選べる文字は次のとおりです。

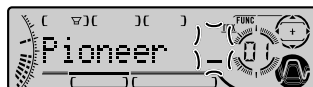
1 ボタン
(ボタンを押すごとに切り換わります) :
アルファベットの小文字 (a ~ z)
空白 ()
アルファベットの太文字 (A ~ Z)
数字 (0 ~ 9)、
記号 (!、"、# など)
空白 ()

2 ボタン :
数字 (0 ~ 9)、
記号 (!、"、# など)
空白 ()

3 ボタン :
カタカナ (ア ~ ン)
音引き (ー)
空白 ()
拗促音、濁点、半濁点
(アイウエオヤヨユツ* °)、
空白 ()

6 d ボタンを押す

10 文字目を点滅させます



7 d ボタンを押す

入力したタイトルが登録されます

入力位置の点滅が終わると、入力したタイトルが登録されます。

8 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

タイトル入力中 (文字が点滅しているとき) に BAND ボタンを押すと、詳細設定画面が解除されて、ふだんの再生画面に戻ります。(入力中のタイトルは登録されません。)

ディスクタイトルを登録したディスクをセットしたときや、「CD TEXT」をセットしたときに、ディスクタイトルや曲名などを表示させることができます。一度に10文字まで表示させることができます。また、隠れている文字を順にスクロールして表示させることもできます。



メモ

表示をディスクタイトルまたはトラックタイトルに切り換えたときに、隠れているタイトルを自動的に1回スクロール表示します。
本機はカナ文字に対応していますので、カナやアルファベットの小文字がそのまま表示されます。タイトルが入力されていない場合は、表示が「No XXXX (例: No Name)」になります。



「CD TEXT」について

「CD TEXT」とは、CDのタイトル/アーティスト名/曲名などの文字情報が収録されたCDです。ディスクタイトル面に下記のマークがついているCDは「CD TEXT」です。(下記マークがついていない「CD TEXT」もあります。)



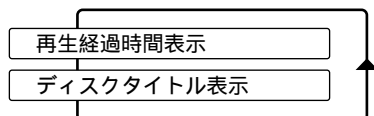
タイトルを表示させる



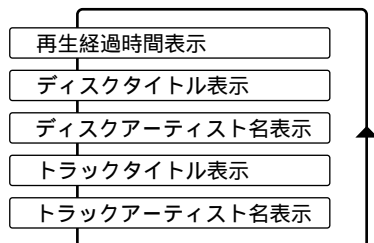
DISP (DISPLAY) ボタンを押す

DISP (DISPLAY) ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります

CD 再生のとき



「CD TEXT」再生のとき



隠れている文字を表示させる



DISP (DISPLAY) ボタンを長く押す

隠れている文字が順に表示されます

タイトルを見て聞きたいCDを探す

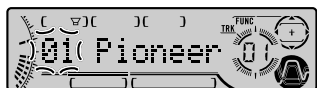
タイトルリスト

CDのタイトルを見て、聞きたいCDを探すことができます。本機で入力したタイトルのほか、「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルでも、タイトルリストを使うことができます。

1 (F) (FUNCTION) ボタンを押す

タイトルリストが表示されます

(E) マルチCD 1 36 ページ)



2 c または d ボタンを押す

ボタンを押すごとに、CD のタイトルが表示されます

前のCDに移動するとき : d を押す

次のCDに移動するとき : c を押す



選択中は、そのCDのCD番号が点滅します。

3 a ボタンを押す

選んだCDが再生されます

4 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

タイトルを入力していないCDでは、CD番号だけが表示され、タイトルは表示されません。

CDの音質を調節するために、COMPとDBEの2つの機能があります。COMPはクラシックなど、音量差の大きい曲を聞いているときご使用ください。DBEは再生している音楽の低音域が不足していると感じたときにご使用ください。



メモ

COMP/DBE機能のついたマルチCDプレーヤーで操作できます。
COMP/DBE機能のないマルチCDプレーヤーを組み合わせたときは、「No COMP」が表示されて、操作ができません。



COMPについて

COMPとは、「Compression (コンプレッション)」の略です。大きな音と小さな音の音量差(ダイナミックレンジ)を小さくする機能です。小さな音が聞き取りにくいときにお使いになると便利です。



DBEについて

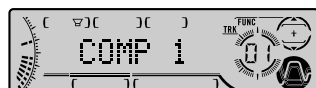
DBEとは、「Dynamic Bass Emphasis (ダイナミックバスエンファシス)」の略です。低音域を押し上げる機能です。車内で低音域が不足したように聞こえるときにお使いになると便利です。



① (FUNCTION) ボタンを押す

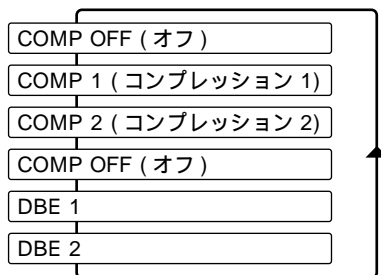
画面に現在のCOMP/DBEが表示されます

(E3 マルチCD 136 ページ)



a または b ボタンを押す

a または b ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります



③ (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

COMP、DBEともに1より2の方が効果が大きくなります。

効果的な音質調整のために

オーディオ調整メニューでの操作

本機は、車内をよりよい音響空間にするために、数々の音質調整機能を搭載しています。音質調整機能を正しい順序で操作することで、より効果的な音響調整が可能です。

効果的な音場調整のために

DSP 調整メニューでの操作

本機は、高品質な音質調整と音場制御のために、デジタル信号処理機能 (DSP) を搭載しています。本機の DSP 調整機能を使用することで、きめ細かい音質調整と音場の再現が可能です。車室内を最適な音響空間にするために、お好みに合わせて設定してください。

5.1ch 対応・DSP ユニット 「DEQ-P9」を接続したときは

本機に、5.1ch 対応・DSP ユニット「DEQ-P9」を接続したときは、5.1ch 対応・DSP ユニットに内蔵の音質・音場調整機能が使用できます。このとき、本機に内蔵の音質・音場調整機能は使えなくなります。

効果的な音質・音場調整の順序


音質・音場調整を効果的に行うためには、正しい順序で行っていただく必要があります。以下の順序通りに設定してください。

1 音場の中心で聞く








( 音の調節 1 e 58 ページ)

F/R (前部右座席) か、F/L (前部左座席) を選んでください。












2 オートタイムアライメント & イコライジング

( 音の調節 1 k 64 ページ)

オートタイムアライメント&イコライジングを行うと、車室内の音響特性を、乱れが少なく、滑らかな状態に最適化します。オートタイムアライメント&イコライジングを行った後に、以下の操作を行うと効果的です。

- ・イコライザーカーブを選ぶ
( 音の調節 1 b 55 ページ)
- ・イコライザーカーブに簡単な補正を加える
( 音の調節 1 c 56 ページ)
- ・イコライザーカーブを細かく調節する
( 音の調節 1 d 57 ページ)
- ・騒音に合わせて音量を自動的に変化させる
( 音の調節 1 j 63 ページ)
- ・ラウドネス
( 音の調節 1 4 50 ページ)
- ・イメージにあった演奏会場を再現する
( 音の調節 1 i 62 ページ)
- ・各ソースの音量を揃える
( 音の調節 1 a 55 ページ)

オートタイムアライメント&イコライジングを行うと、以下の内容は自動で最適な状態に設定されます。必要に応じて微調整を行ってください。

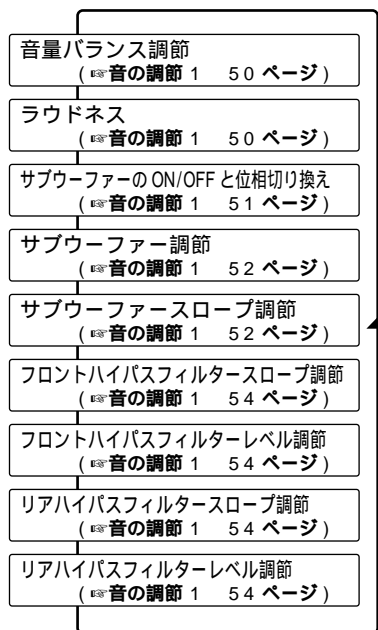
- ・前後左右の音量バランスを調節する
( 音の調節 1 3 50 ページ)
- ・サブウーファースのON/OFFと位相切り換え
( 音の調節 1 6 51 ページ)
- ・サブウーファー調節
( 音の調節 1 7 52 ページ)
- ・サブウーファースロープ調節
( 音の調節 1 8 52 ページ)
- ・フロントハイパスフィルタースロープ調節
( 音の調節 1 9 54 ページ)
- ・フロントハイパスフィルターレベル調節
( 音の調節 1 9 54 ページ)
- ・リアハイパスフィルタースロープ調節
( 音の調節 1 9 54 ページ)
- ・リアハイパスフィルターレベル調節
( 音の調節 1 9 54 ページ)
- ・タイムアライメントを切り換える
( 音の調節 1 f 59 ページ)
- ・タイムアライメントを調節する
( 音の調節 1 g 60 ページ)
- ・オートイコライザーをON/OFFする
( 音の調節 1 h 61 ページ)

オーディオ調整メニューの切り換えかた

「音量バランス調整」「ラウドネス」などの音質調整機能を使うときは、オーディオ調整メニューで操作します。

1 (A) (AUDIO) ボタンを押す

(A) (AUDIO) ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります



初期設定メニューで、「RCA 外部出力の設定 (初期設定 7 93 ページ)」を SW にしていないときは、選択できません。



メモ

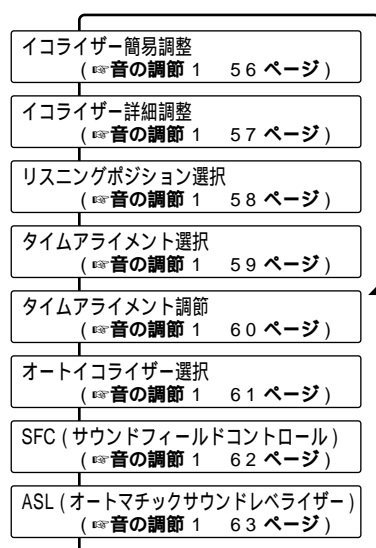
ふだんの再生画面に戻るときは、BAND ボタンを押します。また、約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。
ハイパスフィルターを OFF にしたときは、ハイパスフィルタースロープ調節はできません。

DSP 調整メニューの切り換えかた

「音場の中心で聞く」「イメージにあった演奏会場を再現する」などの音場調整機能を使うときは、DSP 調整メニューで操作します。

1 (DSP) ボタンを押す

(DSP) ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります



メモ

ふだんの再生画面に戻るときは、BAND ボタンを押します。また、約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。ただし、下記の操作をしているときは、自動では戻りません。

- ・ イコライザー 詳細調整
- ・ タイムアライメント調節

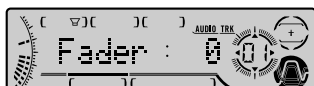
音の調節 1 3 前後左右の音量 バランスを調節する フェーダー/バランス

前後左右のスピーカーからの音量バランスを調節できます。より自然に聞こえるバランスに設定してください。

1 (A) (AUDIO) ボタンを押す

音量バランス調節メニューが表示されます

(音の調節 1 2 4 9 ページ)



2 a または b ボタンを押す

前後の音量バランス (Fader) を調節できます

前を強めるとき : a を押す

後ろを強めるとき : b を押す

前後のバランスは、F25 ~ R25 の範囲で調節できます。

3 c または d ボタンを押す

左右の音量バランス (Balance) を調節できます

右を強めるとき : d を押す

左を強めるとき : c を押す

左右のバランスは、L25 ~ R25 の範囲で調節できます。

4 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

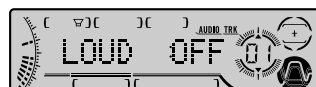
音の調節 1 4 小さな音量でも 聞きやすくする ラウドネス

小さな音量で聞いているときの、低・高音の不足感を補正して、聞きやすい音にします。通常の音量で使用すると、低音と高音が強調された、より迫力のある音で音楽を楽しむことができます。

1 (A) (AUDIO) ボタンを押す

ラウドネスメニューが表示されます

(音の調節 1 2 4 9 ページ)



2 a ボタンを押す

ラウドネス (LOUD) が ON になります

b ボタンを押すと、OFF になります。

3 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

サブウーファーを使う

本機のRCA出力端子には、サブウーファーを接続できます。サブウーファーの調節は、

- 1 サブウーファーのON/OFFと位相切り換え
(音の調節 16)
- 2 サブウーファー調節
(音の調節 17 52 ページ)
- 3 サブウーファースロープ調節
(音の調節 18 52 ページ)

の3つのステップで行います。

サブウーファーを使うときは、これらの操作を順番通り、全て行ってください。



メモ

「RCA外部出力の設定 (初期設定 7 93 ページ)」をREARにしたときは、サブウーファーは調節できません。

「サブウーファーの設定と位相切り換え (音の調節 16)」で、サブウーファーをOFFにした場合は、「サブウーファーのカットオフ周波数選択とレベル調節 (音の調節 7 52 ページ)」と「サブウーファーのスロープ切り換え (音の調節 8 52 ページ)」の一連の操作はできません。

サブウーファーのON/OFFと位相切り換え

サブウーファー

本機にサブウーファーを接続したとき、サブウーファーの設定をONにする必要があります。続いて、サブウーファーの位相を切り換えて、サブウーファーの音が自然に聞こえるように、設定してください。



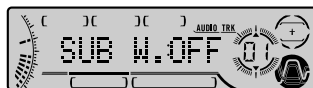
位相切り換えについて

サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内条件により、これらの音の位相どうしが反転（干渉）すると、その周波数帯域が打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐものが、サブウーファーの位相切り換えです。車内条件によって、正相（フロント/リアスピーカーと同時に出力される）が良いか、逆相（フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される）が良いかを選んで設定してください。

1

① (AUDIO) ボタンを押す

サブウーファーマニュー (SUB W) が表示されます (音の調節 12 49 ページ)



2

a ボタンを押す

サブウーファー (SUB W) がONになります

b ボタンを押すと、OFFになります。

3

c または d ボタンを押す

サブウーファーの位相を切り換えます

正相 (NOR) を選ぶとき：d を押す

逆相 (REV) を選ぶとき：c を押す

4

① (AUDIO) ボタンを押す

サブウーファー調節メニュー (音の調節 17 52 ページ) に切り換えてください

音の調節 1
7

サブウーファーのカットオフ周波数選択とレベル調節

サブウーファー調節

サブウーファーと他のスピーカーとの音のつながりを調節するために、サブウーファーのカットオフ周波数とレベルを設定します。全体的なバランスが自然になるように設定してください。



カットオフ周波数について

50、63、80、100、125、160、200 (Hz) から選んだ周波数以下の音域がサブウーファーから出力されます

1

① (AUDIO) ボタンを押す

サブウーファー調節メニュー (80 Hz) が表示されます (☞ 音の調節 1 2 4 9 ページ)



2

c または d ボタンを押す

カットオフ周波数を選びます

高い周波数を選ぶとき：d を押す

低い周波数を選ぶとき：c を押す

カットオフ周波数は、50、63、80、100、125、160、200 (Hz) の中から選ぶことができます。

3

a または b ボタンを押す

レベルを調節します

レベルを大きくするとき：a を押す

レベルを小さくするとき：b を押す

レベルは、- 24 ~ + 6 の範囲で調節できます。

4

① (AUDIO) ボタンを押す

サブウーファースロープ調節メニュー (☞ 音の調節 1 8) に切り換えてください

音の調節 1
8

サブウーファーのスロープ切り換え

スロープ調節

サブウーファーと他のスピーカーとの音のつながりを調節するために、サブウーファーのスロープを設定します



スロープについて

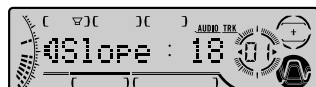
周波数が1オクターブ高く(低く)なったとき、信号が何dB減衰するかを表す値です(単位：dB/oct.)。特性上の傾きを大きくすると、信号が減衰する度合いが大きくなります。本機では、18 (dB/oct.)、12 (dB/oct.) または6 (dB/oct.) の3つのスロープから選んで設定できます。

1

① (AUDIO) ボタンを押す

サブウーファースロープ選択メニュー (Slope) が表示されます

(☞ 音の調節 1 2 4 9 ページ)



2

c または d ボタンを押す

スロープを選びます

スロープは、6 (dB/oct.)、12 (dB/oct.)、18 (dB/oct.) の中から選ぶことができます。

3

BAND (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

低い音を出力しないようにする

選んだ周波数より低い周波数の音が、各スピーカーから出力されないようになります。フロントスピーカー、リアスピーカーのそれぞれで好みの周波数を設定できます。



ハイパスフィルター (HPF) について

ハイパスフィルター (HPF) は、設定した周波数から下の音域 (低域) をカットして、高域を通すフィルターです。ハイパスフィルターを ON にすることで、サブウーファーとの音のつながりを調節できます。



カットオフ周波数について

50、63、80、100、125、160、200 (Hz) から選んだ周波数以下の音域がサブウーファーから出力されます



スロープについて

周波数が1オクターブ高く (低く) なったとき、信号が何 dB 減衰するかを表す値です (単位: dB/oct.)。特性上の傾きを大きくすると、信号が減衰する割合が大きくなります。本機では、- 18 (dB/oct.)、- 12 (dB/oct.) または 0 (PASS) の3つのスロープから選んで設定できます。スロープを調節することで、サブウーファーとフロント・リアスピーカーの音のつながりを調節できます。

ハイパスフィルター

スピーカーにミュートをかける

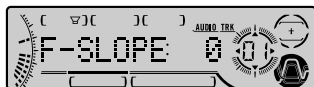
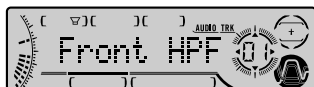


① (AUDIO) ボタンを押す

フロントハイパスフィルタースロープ調節メニュー (Front HPF) または、リアハイパスフィルタースロープ調節メニュー (Rear HPF) が表示されます

(音の調節 1 2 4 9 ページ)

フロントハイパスフィルタースロープ調節メニューを選択したときは、「Front HPF」の次に、「F-SLOPE」が表示されます。リアハイパスフィルタースロープ調節メニューを選択したときは、「Rear HPF」の次に、「R-SLOPE」が表示されます。



② b ボタンを長く押す

選んだスピーカー (フロントまたはリアスピーカー) がミュートされます

a ボタンを押すと、ミュートが解除されます。

フロントスピーカーとリアスピーカーをそれぞれミュートできます。ミュートしたスピーカーからは、音が出なくなります。

次のページへ続く

ハイパスフィルターを設定する

1

① (AUDIO) ボタンを押す

フロントハイパスフィルタースロープ調節メニュー (Front HPF)、またはリアハイパスフィルタースロープ調節メニュー (Rear HPF) が表示されます

(音の調節 1 2 49 ページ)

フロントハイパスフィルタースロープ調節メニューを選択したときは、「Front HPF」の次に、「F-SLOPE」が表示されます。リアハイパスフィルタースロープ調節メニューを選択したときは、「Rear HPF」の次に、「R-SLOPE」が表示されます。



2

c または d ボタンを押す

スロープを選びます

スロープは、12 (dB/oct.)、6 (dB/oct.)、0 (PASS) の中から選ぶことができます。

3

① (AUDIO) ボタンを押す

フロントハイパスフィルターレベル調節メニュー (80 Hz)、またはリアハイパスフィルターレベル調節メニュー (80 Hz) が表示されます



4

c または d ボタンを押す

カットオフ周波数を選びます

高い周波数を選ぶとき：d を押す

低い周波数を選ぶとき：c を押す

カットオフ周波数は、50、63、80、100、125、160、200 (Hz) の中から選ぶことができます。

5

a または b ボタンを押す

レベルを調節します

レベルを大きくするとき：a を押す

レベルを小さくするとき：b を押す

レベルは、-24 ~ 0 (dB) の範囲で調節できます。

6

BAND (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

各ソースの音量を揃える

SLA

ソースを切り換えたときに、ソースごとの音量に違いが出ることがあります。ソースレベルアジャスター (SLA) は、FM の音量を基準として、各ソースの音量の違いを揃える機能です。



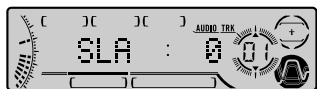
SLA について

SLA は、「Source Level Adjuster (ソースレベルアジャスター)」の略です。SLA は、FM の音量を基準に、他のソースの音量を調節します。このため、FM を聞いているときは SLA には切り換わりません。

AM、テレビ、MD、CD、External (エクスターナルユニット)、AUX (外部機器) のそれぞれの音量差を調節できます。

1 (AUDIO) ボタンを長く押す

SLA 調節メニューが表示されます



2 a または b ボタンを押す

レベルを調整します

レベルを大きくするとき : a を押す
 レベルを小さくするとき : b を押す
 レベルは、- 4 ~ + 4 の範囲で調節できます。

3 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを選ぶだけで、お好みの音質にできます。



Custom1 について

Custom1 には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに登録されます。(1 枚型 CD とマルチ CD、エクスターナル1 とエクスターナル2 は、それぞれ同じ設定になります。) あらかじめ用意されたイコライザーカーブを調節すると、Custom1 カーブとして登録されます。



Custom2 について

Custom2 は、全ソースに共通したイコライザーカーブで、お好みに合わせて調節できます。



EQ Flat について

EQ Flat カーブでは、イコライザーによる音の補正は行いません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えて、イコライザーの効果を確認するときに使用してください。

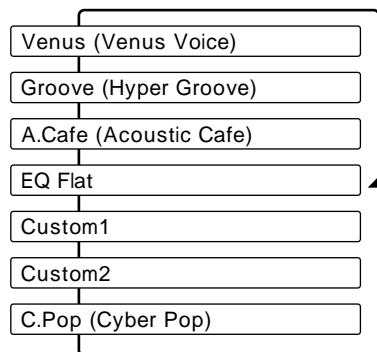


交通情報を受信しているときは

交通情報を受信しているときは、イコライザーカーブを選ぶことはできません。

1 (EQ) ボタンを押す

(EQ) ボタンを押すごとに、次の順序でイコライザーカーブが切り換わります




あらかじめ用意されたイコライザーカーブの全体的なバランスは崩さずに、大まかに弱めたり強めたりできます。用意されたイコライザーカーブの物足りなさを解消したいときに、簡単に補正を加えることができます。



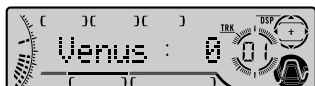
メモ

EQ Flatや、全ての周波数が0に設定されているイコライザーカーブは、補正できません。

1

 (DSP) ボタンを押す

イコライザー簡易調整メニューが表示されます (E♭ 音の調節 1 2 4 9 ページ)

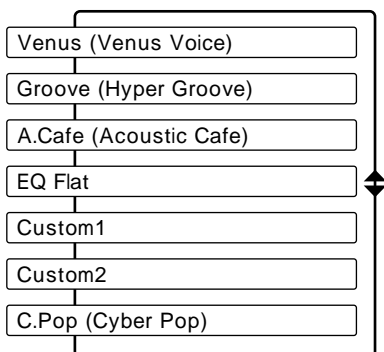


2

c または d ボタンを押す

調節したいイコライザーカーブを選びます

切り換わる順番は、次のとおりです。



3

a または b ボタンを押す

レベルを調節します

レベルを大きくするとき：aを押す

レベルを小さくするとき：bを押す

レベルは、- 6 ~ + 6 の範囲で調節できます。ただし、Venus (Venus Voice) では調整範囲が - 3 ~ + 6 になります。

また、A.Cafe (Acoustic Cafe) と C.Pop (Cyber Pop) では調整範囲が - 5 ~ + 6 になります。

4

 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

イコライザーカーブを細かく調節する

イコライザー詳細調整

あらかじめ用意されたイコライザーカーブに、細かな補正を加えることができます。イコライザーカーブの特定の周波数に過不足を感じたときなどに使うと、周波数ごとに細かな補正を加えることができるため、よりきめ細かい調節が可能です。調節した内容は、自動的に Custom として登録されます。



Custom 1 について

Custom 1 には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに登録されます。(1枚型CDとマルチCD、エクスターナル1とエクスターナル2は、それぞれ同じ設定になります。) あらかじめ用意されたイコライザーカーブを調節すると、Custom 1 カーブとして登録されます。



Custom 2 について

Custom 2 は、全ソースに共通したイコライザーカーブで、お好みに合わせて調節できます。Custom 2 を選んでいるときに調節すると、調節したカーブが新しい Custom 2 として登録されます。

1

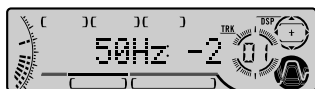
EQ (EQ) ボタンを押す

調節したいイコライザーカーブを選びます (E38 音の調節 1 b 55 ページ)

2

DSP (DSP) ボタンを押す

イコライザー詳細調整メニューが表示されます (E38 音の調節 1 2 49 ページ)



3

c または d ボタンを押す

調節したい周波数を選びます

高い周波数を選ぶとき：d を押す

低い周波数を選ぶとき：c を押す

周波数は、50Hz、80Hz、125Hz、200Hz、315Hz、500Hz、800Hz、1.25kHz、2.0kHz、3.15kHz、5.0kHz、8.0kHz、12.5kHz の中から選ぶことができます。

4

a または b ボタンを押す

レベルを調節します

レベルを大きくするとき：a を押す

レベルを小さくするとき：b を押す

レベルは、-6 ~ +6 の範囲で調節できます。

5

BAND (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

リスニング ポジション セレクターを使って、乗車位置や人数に合わせた最適な音響特性を実現します。



リスニング ポジション セレクターについて

リスニング ポジション セレクターは、座席位置や人数に合わせて、各スピーカーから出力される音の遅延時間とレベルを自動的に調節する機能です。この機能を使うと、どの座席位置でも自然な音響特性が得られます。



乗車位置について

乗車位置は、下記を参考に選んでください。

Front-R : 右ハンドル車に運転者だけがいるとき

Front-L : 左ハンドル車に運転者だけがいるとき

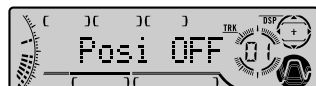
Front : 同乗者が助手席にいますとき

All : 同乗者が後部座席にいますとき

1

(DSP) ボタンを押す

リスニングポジション選択メニューが表示されます (音の調節 1 2 4 9 ページ)



2

abcd ボタンを押す

リスニングポジションを選びます

Front-R (前部右座席)を選ぶとき : d を押す

Front-L (前部左座席)を選ぶとき : c を押す

Front (前部座席)を選ぶとき : a を押す

All (全座席)を選ぶとき : b を押す

同じボタンを押すごとに、ON/OFF します。

3

(BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

タイムアライメントを切り換える

タイムアライメント選択

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節する機能です。出荷時にあらかじめ設定された値 (Initial)、お好みで設定した値 (Custom)、またはオートタイムアライメント&イコライジング (Auto TA&EQ) で設定された値の3種類の中から選べます。



メモ

オートタイムアライメント&イコライジングを行っていない場合は、Auto TAは選べません。(画面上に、「Set Auto TA」が表示されます。)



タイムアライメントの設定について

タイムアライメントは、下記を参照して好みの値を選んでください。

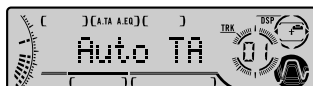
- Initial : 工場出荷時に設定された、タイムアライメントの初期値です。
- Custom : お好みに合わせて調節したタイムアライメントです。
- Auto TA : オートタイムアライメント&イコライジング機能を使って設定したタイムアライメントです。Auto TA&EQ () を行った後は、自動的にこの設定になります。
- TA OFF : タイムアライメントをOFFにします。

1



(DSP) ボタンを押す

タイムアライメント選択メニューが表示されます (E6 音の調節 1 2 4 9 ページ)

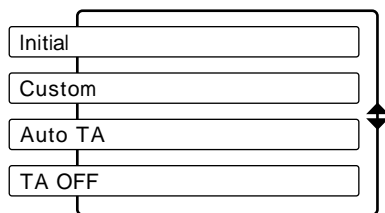


2

c または d ボタンを押す

設定を選びます

切り換わる順番は、次のとおりです。



3



(BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

音の調節 1
16

タイムアライメントを調節する

タイムアライメント調節

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節できます。リスニングポジション (E3) 音の調節 1 e 5 8 ページ) を設定すると自動的に調節されますが、タイムアライメントではさらに厳密に調節できます。



タイムアライメントを調節するには

リスニングポジション選択 (E3) 音の調節 1 e 5 8 ページ) で、Front-RかFront-Lを選んでいないと、タイムアライメントの調節はできません。サブウーファーの設定 (E3) 音の調節 1 6 5 1 ページ) がOFFになっていると、サブウーファーのタイムアライメント調節ができません。サブウーファーを接続したときは、必ずサブウーファーの設定をONにしてください。

3

a または b ボタンを押す

距離を調節します

距離を長くするとき：aを押す

距離を短くするとき：bを押す

距離は2.5 cmずつ、0.0 cm ~ 400.0 cmの範囲で調節できます。

4

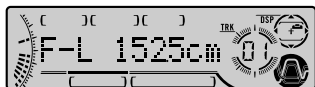
(BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

1

DSP (DSP) ボタンを押す

タイムアライメント調節メニューが表示されます (E3) 音の調節 1 2 4 9 ページ)

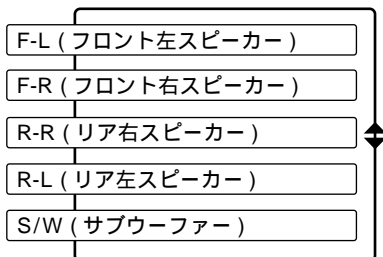


2

c または d ボタンを押す


調節したいスピーカーを選びます

切り換わる順番は、次のとおりです。



オートイコライザー を ON/OFF する

オートイコライザー選択


オートタイムアライメント&イコライジング
( 音の調節 1 k 6 4 ページ) で設定された値
を ON/OFF できます。




メモ

オートタイムアライメント&イコライジングを行
っていない場合は、オートイコライザーの
ON/OFF 切り換えはできません。

1

 (DSP) ボタンを押す

オートイコライザー選択メニューが
表示されます ( 音の調節 1 2 4 9 ページ)



2

a ボタンを押す

オートイコライザーが ON になります

b ボタンを押すと、オートイコライザーが
OFF になります。

3

 (BAND) ボタンを
押す

ふだんの再生画面に戻ります

本機に内蔵のサウンドフィールドコントロール (SFC) を使って、演奏会場の音響特性を再現します。クラブやスタジオなどの音場空間を再現し、臨場感溢れる音楽で車室内を満たします。

BBEを選んだときは、レベル調節もできません。お好みに合わせて設定してください。



SFC について

SFC とは、「Sound Field Control (サウンドフィールドコントロール)」の略です。演奏会場の音は、会場ごとに独特の雰囲気があります。これは、会場の広さや形状、残響特性が異なるため、直接音、初期反射音、残響音の長さや質が変化するからです。SFC には、このようなことを考慮した音場空間プログラムが設定されています。



BBE について

BBE は、音楽再生時に発生する高調波成分の遅延や振幅の狂いを、位相補正と高域ブーストを組み合わせて修復します。これにより、極めて原音に近い再生音を再現します。本機に内蔵の BBE を使うと、透明度が高く、ライブ音声に近い自然な臨場感を再現できます。

この製品は、BBE サウンド・インコーポレーテッドからの実施権に基づき製造されています。この製品は米国 BBE 社の所有する特許 USP4638258 と 4482866 を使用しています。

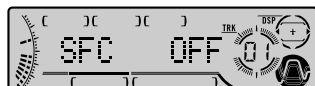
BBE と BBE のシンボルは、BBE Sound, Inc. の登録商標です。



1 DSP (DSP) ボタンを押す

SFC メニューが表示されます

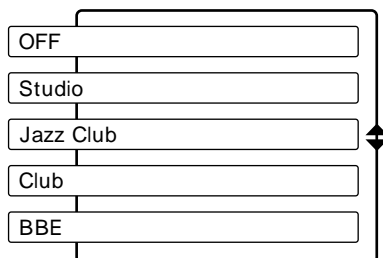
(音の調節 1 2 4 9 ページ)



2 c または d ボタンを押す

音場プログラムを選びます

切り換わる順番は、次のとおりです。



3 BBE を選択しているときは、a または b ボタンを押す

BBE のレベルを調節します

レベルを大きくするとき：a を押す

レベルを小さくするとき：b を押す

レベルは - 4 ~ + 4 の範囲で調節できます。



4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

騒音に合わせて音量を自動で変化させる

ASL

本機に内蔵のマイクで外部の騒音レベルを検知し、騒音のレベルに合わせて音量と音質を補正します。補正は自動で行いますので、ボリューム操作などに煩わされることなく、安定した聞き心地を保ちます。



ASL について

ASLとは、「Automatic Sound Levelizer (オートマチック サウンド レベライザー)」の略です。ASLは、走行速度や道路状況によって変化する車内の騒音を検知して、騒音レベルに合わせて自動的に音量と音質を変化させる機能です。



メモ

もともとの音量が十分にあるときは、騒音レベルが大きくても、音量の上げ幅は小さくなります。この機能が働いて音量が上がりすぎたとき、音が歪むことがあります。そのときはVOLUMEで音量を下げてください。

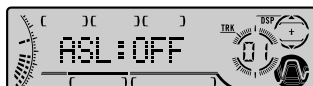
1



(DSP) ボタンを押す

ASL メニューが表示されます

(音の調節 1 2 4 9 ページ)



2

a ボタンを押す

ASL が ON になります

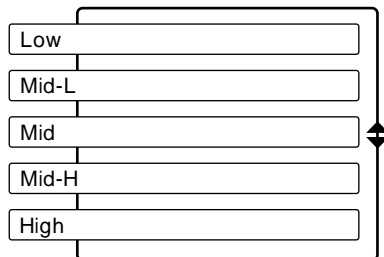
b ボタンを押すと、ASL が OFF になります。

3

c または d ボタンを押す

ASL のレベルを選びます

切り換わる順番は、次のとおりです。



4



(BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



警告

運転中に Auto TA&EQ を行わない



自動車が走行中に Auto TA&EQ を行わないでください。Auto TA&EQ 機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。

オートタイムアライメント&イコライジング (Auto TA&EQ) 機能とは

車内空間には、形状、材質、スピーカーの取付位置やリスニングポジションなど、さまざまな制約があります。このため、ホームオーディオに比べて、音響特性が大きく乱れています。乱れた音響特性を補正するために、一般的にはイコライザーなどを使用します。しかし、車内の音響特性を最適にするためには、音響測定器などの道具や、音響調整の熟練した技術が必要です。

この、複雑で困難な音響調整を、専用のマイクだけで自動的に行う機能が、本機の「オートタイムアライメント&イコライジング (Auto TA&EQ)」機能です。

本機の Auto TA&EQ 機能は、車室内を最良の音響空間にするために必要な調整を、全て自動で行います。そして、車室内の音響特性を、乱れが少なく、滑らかな状態に最適化します (Auto EQ)。また、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を測定し、音声の到達時間を補正します (Auto TA)。

こうして、それぞれの車にとって最良の音響空間を手軽に実現します。

スピーカーの破損を防止するために

次の状態で Auto TA&EQ を行うと、スピーカーを破損するおそれがあります。Auto TA&EQ を行う前に、よく確認してください。

- スピーカーの接続を誤っている場合
(例：サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合)
スピーカーの耐入力を超えるパワーアンプを接続している場合

Auto TA&EQ を行う前に必ずしておくこと

Auto TA&EQ を効果的に行うために、準備していただくことがあります。下記を参照して、正しく準備してください。

- 1 なるべく静かな場所に車を停車させる。
- 2 車のエンジン、エアコン、ヒーターをオフにする。
(エアコンやヒーターのファンの騒音によって、Auto TA&EQ が実行できないことがあります。)
- 3 携帯電話や車載電話の電源をオフにする。または車外に持ち出す。
- 4 付属の音響特性測定用マイクを用意する。
(それ以外のマイクでは、音響特性が正しく測定されません。)
- 5 フロントスピーカーを接続する。
(接続していないと、Auto TA&EQ が実行できません。)
- 6 フロントスピーカーのミュートを解除する。
(ミュートしていると、Auto TA&EQ が実行できません。)
- 7 リスニングポジションを設定する。
(リスニングポジションを F/R または F/L 以外に設定したときは、Auto TA&EQ をはじめと、強制的に F/R に再設定されます。)
- 8 入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルを推奨位置に合わせる。
- 9 ローパスフィルター付きのパワーアンプを接続している場合は、ローパスフィルターをオフにする。
 - a ローパスフィルター付きのパワードサブウーファーを接続している場合は、ローパスフィルターの遮断周波数を最も高い値に設定する。

Auto TA&EQ による調節で変更される設定

Auto TA&EQ を行うと、設定が次のように変更されます。

- 前後左右の音量バランス設定
(フェーダー/バランス)
:初期設定に戻る
- イコライザーカーブ
:フラットに設定される
- リスニングポジション
:F/R に設定される
(F/L に設定していた場合は、F/L のまま)
- サブウーファー出力
:オフにしていた場合、オンに設定される
- リアハイパスフィルター
:車内の音響特性に合わせて調節される

Auto TA&EQ の調節内容について

再度 Auto TA&EQ を行うと、前回の調整内容は消去されます。

Auto TA&EQ 測定時に算出されたタイムアライメントの値は、コンピューターが算出した正確な遅延時間を基に測定されたものです。次のような場合に、実際の距離と異なることがあります。そのままと使用ください。

- 車室内の反射音が直接音より強く、かつ遅延を生じている
- パワードサブウーファーや外部アンプのローパスフィルターの影響により、低音に遅延が生じている

音の調節 1
21

オートタイムアライメント&イコライジングを行う

オートタイムアライメント&イコライジングを行う前に、「オートタイムアライメント&イコライジングを行う前に (音の調節 1 k 6 4 ページ)」をよく読んで、オートタイムアライメント&イコライジングの準備を行ってください。

1 マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に、付属のマイクを前向きに固定します



メモ

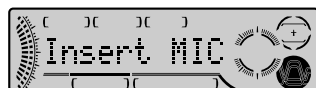
マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がるおそれがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。
音響特性測定用マイクをセットする位置により、Auto TA&EQの調整内容が変化します。お好みにより、助手席にセットすることもできます。

2 (SOURCE) ボタンを長く押す

本機の電源をOFFにします

3 (AUDIO) ボタンを長く押す

Auto TA&EQ 計測モードが表示されます

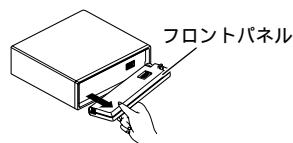


4 OPEN ボタンを押す

フロントパネルを開けます

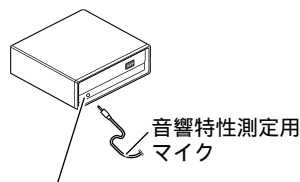
5 フロントパネルの左側を持ってフロントパネルを取り外す

フロントパネルが外れます



6 マイクを本機に接続する

付属の音響特性測定用マイクを、音響特性測定用マイク挿入口 (Auto TA&EQ 用) に接続します



音響特性測定用マイク挿入口

**メモ**

Auto TA&EQを開始してから測定が終了するまでに、約4分かかります。測定時間は周囲の騒音状態、車両形状、スピーカーの数などにより異なります。

本機に音響特性測定用マイクがしっかりと挿入されていない状態でAuto TA&EQを行うと、エラーが生じます。マイクを確実に挿入して、Auto TA&EQを行ってください。

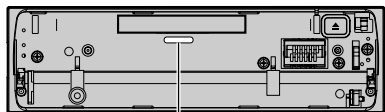
7 車の外に出る

本機にマイクを接続すると、「ピッ」という音で10秒のカウントダウンが始まります。10秒以内に車外に出て、ドアを閉めてください。

8 Auto TA&EQ が開始される

計測音（ノイズ）が各スピーカーから出力され、Auto TA&EQが始まります

Auto TA&EQ中は、ディスク挿入口のイルミネーションが1秒間隔で、赤色に点滅します。



挿入口イルミネーション

**メモ**

直射日光が当たると、挿入口イルミネーションの赤色が見えにくくなることがあります。挿入口イルミネーションの色が見えやすい環境でAuto TA&EQを行うことをおすすめします。

**9 Auto TA&EQ が自動的に終了する**

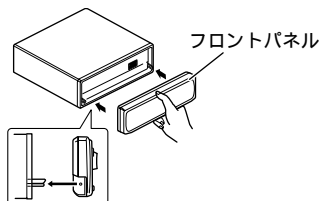
計測が終わると、Auto TA & EQ は自動的に終了します

Auto TA&EQが正常に終了すると、挿入口イルミネーションの点滅が終わり、赤色に点灯します。

Auto TA&EQ動作中にエラーが生じた場合は、挿入口イルミネーションが短い間隔で点滅します。

10 フロントパネルを本体に押しつける

フロントパネルを取り付けます

**11 Auto TA&EQ の内容を確認する**

ディスプレイに表示される内容を確認してください

**メモ**

Auto TA&EQを途中でやめたいときは、音響特性測定用マイクを取り外すか、EJECTボタンを押してください。Auto TA&EQ測定モードを自動的に解除します。

音響特性測定用マイクは、グローブボックスなどに入れて、大切に保管してください。直射日光の当たる場所や、高温になる場所に長時間放置すると、変形、変色、故障の原因となります。

効果的な音質調整のために

オーディオ調整メニューでの操作

別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」は、車内をよりよい音響空間にするために、数々の音質調整機能を搭載しています。本機と「DEQ-P9」を組み合わせることで、「DEQ-P9」に搭載されている、全ての音質調整機能が操作できます。

効果的な音場調整のために

DSP 調整メニューでの操作

別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」は、高品質な音質調整と音場制御のために、デジタル信号処理(DSP)を搭載しています。本機と「DEQ-P9」を組み合わせることで、「DEQ-P9」に搭載されている、全てのDSP調整機能が操作できます。そして、きめ細かい音質調整と、音場の再現が可能です。

5.1ch対応・DSPユニット 「DEQ-P9」を接続したときは

本機に、5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続したときは、「DEQ-P9」に内蔵の音質・音場調整機能が使用できます。

効果的な音質・音場調整の順序

音質・音場調整を効果的に行うためには、正しい順序で行っていただく必要があります。以下の順序通りに設定してください。

- 1 接続したスピーカーを設定する
(音の調節 2 4 70 ページ)
スピーカーの有無(ON/OFF)を設定してください。
- 2 音場の中心で聞く
(音の調節 2 f 81 ページ)
F/R(前部右座席)か、F/L(前部左座席)を選んでください。
- 3 オートタイムアライメント
&イコライジング
(音の調節 2 j 86 ページ)

オートタイムアライメント&イコライジングを行うと、車室内の音響特性を、乱れが少なく、滑らかな状態に最適化します。オートタイムアライメント&イコライジングを行った後に、以下の操作を行うと効果的です。

- ・イコライザーカーブを選ぶ
(音の調節 2 d 79 ページ)
- ・ドルビープロロジックIIを使う
(音の調節 2 g 82 ページ)
- ・オリジナルの音声で聞く
(音の調節 2 c 78 ページ)

Auto TA&EQの効果確かめたいときにご使用ください

オートタイムアライメント&イコライジングを行うと、以下の内容は自動で最適な状態に設定されます。必要に応じて微調整を行ってください。

- ・前後左右の音量バランスを調節する
(音の調節 2 3 70 ページ)
- ・クロスオーバー周波数を設定する
(音の調節 2 5 72 ページ)
- ・スピーカーレベルを調節する
(音の調節 2 6 73 ページ)
- ・テストトーンでスピーカーレベルを調節する
(音の調節 2 7 74 ページ)
- ・タイムアライメントを切り換える
(音の調節 2 8 75 ページ)
- ・タイムアライメントを調節する
(音の調節 2 9 76 ページ)
- ・3バンドパラメトリックイコライザーを調節する
(音の調節 2 e 80 ページ)
- ・オートイコライザーをON/OFFする
(音の調節 2 i 85 ページ)

DVDを再生しているときは、お好みに合わせて以下の設定を行ってください。

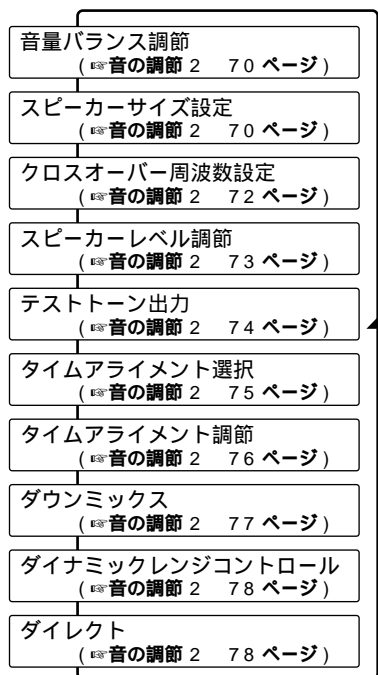
- ・ダイナミックレンジコントロールを使う
(音の調節 2 b 78 ページ)
- ・ダウンミックス機能を使う
(音の調節 2 a 77 ページ)

オーディオ調整メニューの切り換えかた

「音量バランス調整」「スピーカーサイズ設定」などの音質調整機能を使うときは、オーディオ調整メニューで操作します。

1 ① (AUDIO) ボタンを押す

① (AUDIO) ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります



DSP 調整メニューの切り換えかた

「3バンドパラメトリックイコライザー調整」「音場の中心で聞く」などの音場調整機能を使うときは、DSP 調整メニューで操作します。

1 DSP (DSP) ボタンを押す

DSP (DSP) ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります



メモ

ふだんの再生画面に戻るときは、BAND ボタンを押します。また、約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。ただし、下記の操作をしているときは、自動では戻りません。

- ・ 3 バンドパラメトリックイコライザー調整



メモ

ふだんの再生画面に戻るときは、BAND ボタンを押します。また、約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。ただし、下記の操作をしているときは、自動では戻りません。

- ・ テストトーン出力
- ・ タイムアライメント調節

音の調節 2

3

前後左右の音量
バランスを調節する
フェーダー/バランス

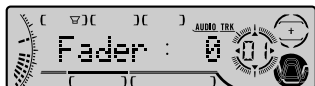
前後左右のスピーカーからの音量バランスを調節できます。より自然に聞こえるバランスに設定してください。

1

(A) (AUDIO) ボタンを押す

音量バランス調節メニューが表示されます

(音の調節 2 2 69 ページ)



2

a または b ボタンを押す

前後の音量バランス (Fader) を調節できます

前を強めるとき : a を押す

後ろを強めるとき : b を押す

前後のバランスは、F25 ~ R25 の範囲で調節できます。

3

c または d ボタンを押す

左右の音量バランス (Balance) を調節できます

右を強めるとき : d を押す

左を強めるとき : c を押す

左右のバランスは、L25 ~ R25 の範囲で調節できます。

4

BAND (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

音の調節 2

4

接続したスピーカー
を設定する

各スピーカーの有無やサイズを設定する
スピーカーの有無や、接続したスピーカーのサイズ (低音再生能力) を設定できます。この設定により、次の項目を調整できます。

- ・スピーカーを接続していないチャンネルの音を、他のスピーカーに振り分ける
- ・低音再生に適したスピーカーを設定する



Auto TA&EQ を行うときは

Auto TA&EQ を行うときは、スピーカーの有無だけを設定してください。スピーカーのサイズは自動的に設定されます。
接続していないスピーカーの設定は、必ず OFF にしてください。



スピーカーサイズについて

スピーカーサイズ設定の目安は、100Hz 以下の周波数の再生能力が基準になります。100Hz 以下の周波数が再生できる場合は、スピーカーサイズを LARGE (LRG) にしてください。100Hz 以下の周波数が再生できない場合は、スピーカーサイズを SMALL (SML) にしてください。
(スピーカーの再生周波数帯域については、お手持ちのスピーカーの取扱説明書をご覧ください。) 接続していないスピーカーの設定は、必ず OFF にしてください。

フロントスピーカーとリアスピーカーの両方を SMALL に設定すると、低音が著しく不足した感じになります。

2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジックIIをONにすると、次のような現象が起こることがあります。

- ・センタースピーカーの設定を SMALL や LARGE にしている場合、センタースピーカーだけから音が出力されることがあります。
- ・センタースピーカーを接続しないと、音が出力されないことがあります。



サブウーファーを接続したときは

サブウーファーの設定がOFFになっている場合は、サブウーファーの位相切り換えができません。サブウーファーを接続したときは、必ずサブウーファーの設定をONにしてください。



位相切り換えについて

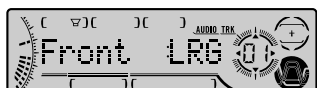
サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内条件により、これらの音の位相どうしが反転（干渉）すると、その周波数帯域が打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐものが、サブウーファーの位相切り換えです。車内条件によって、正相（フロント/リアスピーカーと同時に出力される）が良いか、逆相（フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される）が良いかを選んで設定してください。

1

Ⓐ (AUDIO) ボタンを押す

スピーカーサイズ設定メニューが表示されます

(音の調節 2 2 69 ページ)

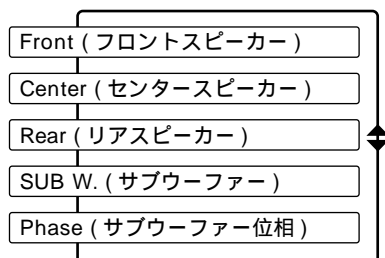


2

c または d ボタンを押す

設定したいスピーカーを選びます

切り換わる順番は、次のとおりです。



3

a または b ボタンを押す

スピーカーの有無やサイズを設定します

各スピーカーの設定は、次の中から選ぶことができます。

フロントスピーカー : SML/LRG
リアスピーカー : OFF/SML/LRG
センタースピーカー : OFF/SML/LRG
サブウーファー : OFF/ON
サブウーファー位相 : NOR/REV



メモ

スピーカーは、以下の内容を参照して、正しく設定してください。

SML : 100Hz以下の周波数が再生できない

LRG : 100Hz以下の周波数が再生できる

OFF : スピーカーを接続していない

ON : サブウーファーを接続している

NOR : 正相

REV : 逆相

4

BAND (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

クロスオーバー周波数を設定する

クロスオーバー周波数設定

複数のスピーカーで構成されるシステムで、それぞれのスピーカーが再生する周波数帯域を定める境界のことを、クロスオーバー周波数と呼びます。クロスオーバー周波数によって、スピーカーサイズをSMALL (SML) に設定したスピーカーや、サブウーファーが再生する周波数帯域を設定できます。

SMALL (SML) に設定されたスピーカーからは、選んだ周波数より高い周波数帯域が再生されます。カットされた周波数帯域は、サブウーファーまたはLARGEに設定されたスピーカーから再生されます。



メモ

サブウーファーからは、選んだ周波数より低い周波数帯域が再生されます。

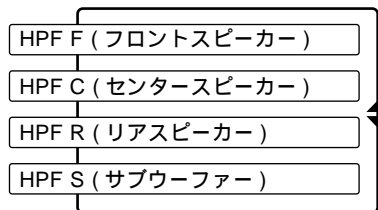
サブウーファーのLPF (ローパスフィルター) と、スピーカーサイズをSMALL (SML) に設定したスピーカーのHPF (ハイパスフィルター) を設定します。サブウーファーがOFFで、他のスピーカーのサイズがLARGE (LRG) やOFFに設定されている場合、クロスオーバー周波数の設定は無効になります。

スピーカー設定モード (音の調節 2 4 7 0 ページ) でOFFに設定したスピーカーは選べません。

2 c または d ボタンを押す

設定したいスピーカーを選びます

切り換わる順番は、次のとおりです。



3 a または b ボタンを押す

カットオフ周波数を選びます

高い周波数を選ぶとき : a を押す

低い周波数を選ぶとき : b を押す

クロスオーバー周波数は、63、80、100、125、160、200 (Hz) の中から選ぶことができます。

1 (A) (AUDIO) ボタンを押す

クロスオーバー周波数設定メニューが表示されます

(音の調節 2 2 6 9 ページ)



4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

スピーカーレベルを調節する

スピーカーレベル調節

テストトーンで調節した各スピーカーからの出力レベル (※ 音の調節 2 7 7 4 ページ) を、実際の音声聞きながら再調整できます。



メモ

スピーカーレベル調整メニューとテストトーンメニュー (※ 音の調節 2 7 7 4 ページ) の出力レベルは同じ値になります。

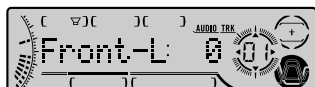
スピーカーサイズ設定メニュー (※ 音の調節 2 4 7 0 ページ) で OFF にしたスピーカーは選ばれません。

1

① (AUDIO) ボタンを押す

スピーカーレベル調節メニューが表示されます

(※ 音の調節 2 2 6 9 ページ)

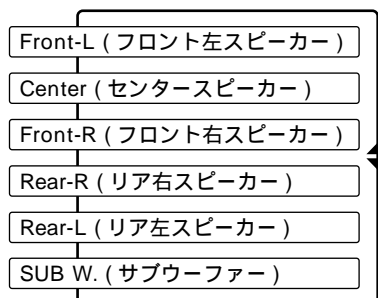


2

② c または d ボタンを押す

設定したいスピーカーを選びます

切り換わる順番は、次のとおりです。



3

a または b ボタンを押す

レベルを調節します

レベルを大きくするとき：a を押す

レベルを小さくするとき：b を押す

レベルは、- 10 ~ + 10 の範囲で調節できます。

4

BAND (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

テストトーンでスピーカーレベルを調節する

テストトーン出力

テストトーンを聞きながら、各スピーカーからの出力レベルを調節できます。スピーカーシステム全体のバランスを整えたいときに便利です。



メモ

スピーカーレベル調整メニュー (音の調節 2 6 73 ページ) とテストトーンメニューの出力レベルは同じ値になります。

スピーカーサイズ設定メニュー (音の調節 2 4 70 ページ) でOFFにしたスピーカーは選ばません。

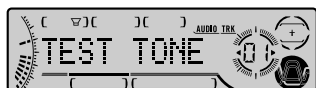
レベルを調節している間、テストトーンは次のスピーカーには切り換わりません。

1

① (AUDIO) ボタンを押す

テストトーン出力メニューが表示されます

(音の調節 2 2 69 ページ)

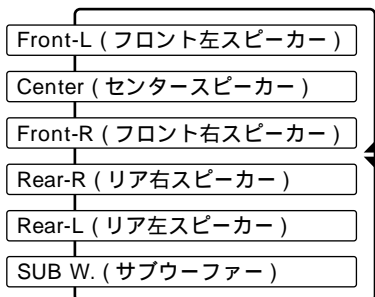


2

d ボタンを押す

テストトーン出力を開始します

スピーカーが自動的に切り換わります。切り換わる順番は、次のとおりです。



3

a または b ボタンを押す

レベルを調節します

レベルを大きくするとき: a を押す

レベルを小さくするとき: b を押す

レベルは、- 10 ~ + 10 の範囲で調節できます。

4

c ボタンを押す

テストトーン出力が停止します

5

BAND (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

タイムアライメントを切り換える

タイムアライメント選択

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節する機能です。出荷時にあらかじめ設定された値 (Initial)、お好みで設定した値 (Custom)、またはオートタイムアライメント&イコライジング (Auto TA&EQ) で設定された値の3種類の中から選べます。



メモ

オートタイムアライメント&イコライジングを行っていない場合は、Auto TAは選べません。(画面上に、「Set Auto TA」が表示されます。)



タイムアライメントの設定について

タイムアライメントは、下記を参照してお好みの値を選んでください。

Initial : 工場出荷時に設定された、タイムアライメントの初期値です。

Custom : お好みに合わせて調節したタイムアライメントです。

Auto TA : オートタイムアライメント&イコライジング機能を使って設定したタイムアライメントです。Auto TA&EQ (※ 音の調節 2 k 88 ページ) を行った後は、自動的にこの設定になります。

TA OFF : タイムアライメントをOFFにします。

1

① (AUDIO) ボタンを押す

タイムアライメント選択メニューが表示されます (※ 音の調節 2 2 69 ページ)

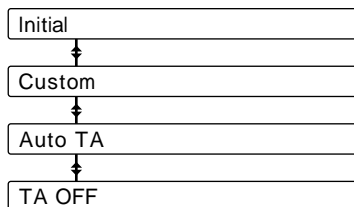


2

② c または d ボタンを押す

設定を選びます

切り換わる順番は、次のとおりです。



3

③ (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

タイムアライメントを調節する

タイムアライメント調節

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節できます。リスニングポジション (E3) 音の調節 2 f 8 1 ページ) を設定すると自動的に調節されますが、タイムアライメントではさらに厳密に調節できます。



タイムアライメントを調節するには

リスニングポジション選択 (E3 音の調節 2 f 8 1 ページ) で、Front-RかFront-Lを選んでいないと、タイムアライメントの調節はできません。サブウーファーの設定 (E3 音の調節 2 4 7 1 ページ) がOFFになっていると、サブウーファーのタイムアライメント調節ができません。サブウーファーを接続したときは、必ずサブウーファーの設定をONにしてください。

3

a または b ボタンを押す

距離を調節します

距離を長くするとき：aを押す

距離を短くするとき：bを押す

距離は2.5 cmずつ、0.0 cm ~ 500.0 cmの範囲で調節できます。

4

BAND (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

1

A (AUDIO) ボタンを押す

タイムアライメント調節メニューが表示されます (E3 音の調節 2 2 6 9 ページ)

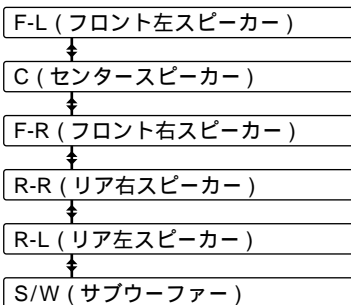


2

c または d ボタンを押す

調節したいスピーカーを選びます

切り換わる順番は、次のとおりです。



ダウンミックスとは、5.1チャンネルの音声を、2チャンネルに変換する機能のことです。チャンネル数を落として、音声をDVDフォーマットの中で定められた一定基準にしたがって混合し、再生します。このため、センタースピーカーやサブウーファーを持たないシステムでも、5.1チャンネルの臨場感や音場感を再現できます。



メモ

DVDオーディオには、ダウンミックスを禁止しているものがあります。その場合は、ダウンミックスを設定しても実行されません。



ダウンミックスの設定内容について

Lo/Ro :

オリジナルの音声で、サラウンド成分のような音声チャンネルを含まない場合に選択します。オリジナルの音声を2チャンネル音声に変換して再生します。

Lt/Rt :

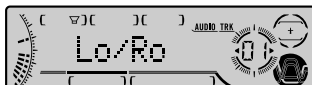
オリジナルの音声で、サラウンド成分を含んでいるときに選択します。サラウンド成分を復元(デコード)できるように、2チャンネル音声に変換して再生します。

1

① (AUDIO) ボタンを押す

ダウンミックスメニューが表示されます

(音の調節 2 2 6 9 ページ)



2

② c または d ボタンを押す

ダウンミックスの設定を選びます

Lo/Roを選ぶとき : cを押す

Lt/Rtを選ぶとき : dを押す

3

③ (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

音の調節 2

11

ダイナミックレンジ
コントロールを使う

ダイナミックレンジコントロール

ダイナミックレンジとは、一番大きな音と一番小さな音の幅のことです。ダイナミックレンジコントロールは、この幅を圧縮して、音を聞き取りやすくする機能です。音量を下げて楽しむときに使うと効果的です。



メモ

ダイナミックレンジコントロールは、ドルビーデジタル音声のときだけ効果が得られます。DVDディスクを再生しているときだけ、ダイナミックレンジコントロールメニューに切り換わります。

1

① (AUDIO) ボタンを押す

ダイナミックレンジコントロール
メニューが表示されます

(音の調節 2 2 6 9 ページ)



2

a ボタンを押す

ダイナミックレンジコントロールが
ON になります

b ボタンを押すと、ダイナミックレンジ
コントロールがOFFになります。

3

BAND (BAND) ボタンを
押す

ふだんの再生画面に戻ります

音の調節 2

12

オリジナルの音声で
聞く

ダイレクト

各種オーディオの設定を一時的に無効にします。調整したオーディオ設定の効果を確かめるときに使うと便利です。



ダイレクトメニューがONのときは

ダイレクトメニューがONのときは、以下の操作だけが有効です。

- ・音量調節 (VOLUME と ATT)
- ・ドルビープロロジックII

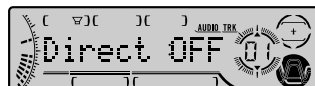
2チャンネルのリニアPCMまたは2チャンネルのドルビーデジタル音声では、フロントスピーカー (左右) 以外からは音声出力されません。

1

① (AUDIO) ボタンを押す

ダイレクトメニューが表示されます

(音の調節 2 2 6 9 ページ)



2

a ボタンを押す

ダイレクトがON になります

b ボタンを押すと、ダイレクトが
OFF になります。

3

BAND (BAND) ボタンを
押す

ふだんの再生画面に戻ります

イコライザーカーブを選ぶ

イコライザー選択

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを選ぶだけで、好みの音質にできます。



Custom1について

Custom1には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに登録されます。(1枚型CDとマルチCD、エクスターナル1とエクスターナル2は、それぞれ同じ設定になります。)あらかじめ用意されたイコライザーカーブを調節すると、Custom1カーブとして登録されます。



Custom2について

Custom2は、全ソースに共通したイコライザーカーブで、お好みに合わせて調節できます。



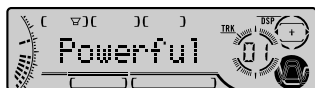
EQ Flatについて

EQ Flatカーブでは、イコライザーによる音の補正は行いません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えて、イコライザーの効果を確認するときに使用してください。

1

(DSP) ボタンを押す

イコライザー選択メニューが表示されます (E音の調節 2 2 69 ページ)

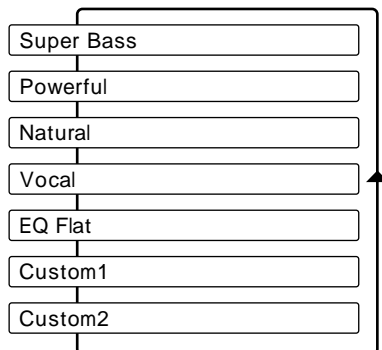


2

c または d ボタンを押す

イコライザーカーブを選びます

切り換わる順番は、次のとおりです。



3

(BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

3 バンド パラメトリックイコライザーを調節する

パラメトリックイコライザーは、中心周波数、帯域幅(Q)のパラメーターをコントロールできるイコライザーです。本機は、3バンドパラメトリックイコライザーを搭載しています。この機能を使って、「Custom1」と「Custom2」のそれぞれのイコライザーカーブの、フロント/センター/リアのそれぞれのスピーカーに対して調節を行います。

各バンドの中心周波数や帯域幅(Q)を細かく設定できるので、多彩な音作りが可能です。



センタースピーカーの調節について

センタースピーカーは、音像の定位に大きな影響を及ぼします。このため、他のスピーカーと同時にバランスを取るのには、非常に難しい作業です。全体のバランスを取るためには、次の手順で行うと簡単です。


- 1 2チャンネルの音声(CDなど)を再生する
- 2 センタースピーカーを除く全てのスピーカーのバランスを取る
- 3 5.1チャンネルの音声(ドルビーデジタルやDTS)を再生する
- 4 センタースピーカーを、全体のスピーカーのバランスに合わせて調節する




中心周波数について

各バンドの中心周波数は、26種類の周波数の中から選ぶことができます。周波数は1/3オクターブずつのステップで切り換えることができますが、各バンドの中心周波数の間隔を1オクターブ未満にすることはできません。

1

 (DSP) ボタンを押す

3 バンド パラメトリックイコライザー調整メニューが表示されます

( 音の調節 2 2 69 ページ)

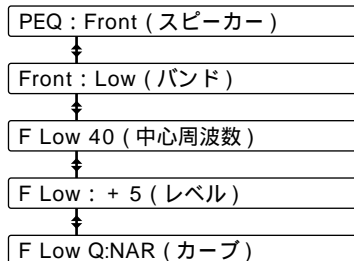


2

c または d ボタンを押す

調節したい項目を選びます

切り換わる順番は、次のとおりです。



3

a または b ボタンを押す

調節したいスピーカーを選びます

切り換わる順番は、次のとおりです。



4

dを押してから、
a または b ボタンを押す

調節したいバンドを選びます

切り換わる順番は、次のとおりです。



5 dを押してから、 aまたはb ボタンを押す

中心周波数を選びます

高い周波数を選ぶとき : aを押す

低い周波数を選ぶとき : bを押す

中心周波数は、40、50、63、80、100、125、160、200、250、315、400、500、630、800、1k、1.25k、1.6k、2k、2.5k、3.15k、4k、5k、6.3k、8k、10k、12.5k (Hz) の中から選ぶことができます。

6 dを押してから、 aまたはb ボタンを押す

レベルを調節します

レベルを大きくするとき : aを押す

レベルを小さくするとき : bを押す

レベルは、-6 ~ +6 の範囲で調節できます。

7 dを押してから、 aまたはb ボタンを押す

カーブの傾きを選びます

緩やかな傾き (Q.WIDE) を選ぶとき : aを押す

急な傾き (Q.NAR) を選ぶとき : bを押す

8 手順 2 ~ 7 を繰り返す

各スピーカーの核バンドも同様に調節します

9 BAND (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

リスニング ポジション セレクターを使って、乗車位置や人数に合わせた最適な音響特性を実現します。



リスニング ポジション セレクターについて

リスニング ポジション セレクターは、座席位置や人数に合わせて、各スピーカーから出力される音の遅延時間とレベルを自動的に調節する機能です。この機能を使うと、どの座席位置でも自然な音響特性が得られます。



乗車位置について

乗車位置は、下記を参考に選んでください。

Front-R : 右ハンドル車に運転者だけがいるとき

Front-L : 左ハンドル車に運転者だけがいるとき

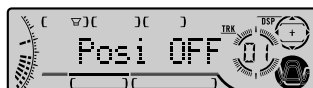
Front : 同乗者が助手席にいるとき

All : 同乗者が後部座席にいるとき



1 DSP (DSP) ボタンを押す

リスニングポジション選択メニューが表示されます (E3 音の調節 2 2 6 9 ページ)



2 abcd ボタンを押す

リスニングポジションを選びます

Front-R (前部右座席) を選ぶとき : dを押す

Front-L (前部左座席) を選ぶとき : cを押す

Front (前部座席) を選ぶとき : aを押す

All (全座席) を選ぶとき : bを押す

同じボタンを押すごとに、ON/OFF します。



3 BAND (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

ドルビープロロジックIIを使う

ドルビープロロジックIIは、オリジナル録音の空間情報から、立体的なサラウンド空間を作り出す、先進的な機能です。この機能を使うと、2チャンネルのステレオ音声を5.1チャンネルに拡張して再生します。

ドルビープロロジックIIによる5.1チャンネル再生は、あらゆる2チャンネルステレオ音源に対して可能です。たとえば古い映画やCDなど、2チャンネルステレオで録音された音源でも、5.1チャンネルに拡張して再生できます。

また、従来のドルビープロロジックに比べ、音の定位がより鮮明になり、音の移動も自然に再生されるので、より立体的な音場を楽しめます。

ドルビープロロジックIIのモードを選ぶ



ドルビープロロジックIIのON/OFFについて
こんなときは、ドルビープロロジックIIをONにしてください。

- ・ 音声が2チャンネルのリニアPCM、または2チャンネルのドルビーデジタルのとき
 - ・ SFCがMusical、DramaまたはActionのとき
- こんなときは、ドルビープロロジックIIをOFFにしてください。
- ・ SFCがJazz、HallまたはClubのとき



ドルビープロロジックIIのモードについて
マトリックス (MATRIX)

方向性強調回路がオフになるため、シンブルなサラウンド再生になります。FMやTVなどのステレオ放送で、受信状態が不安定な場合に適しています。

ミュージック (MUSIC)

広く深い音場を表現し、音楽などを臨場感豊かに再生します。ミュージックモードのパラメーターを調整することで、お好みに合わせた空間表現を得ることができます。

ムービー (MOVIE)

映画やドラマなどのステレオ音声を、5.1チャンネル録音に迫る、立体的で迫力のある音声にします。

オフ (OFF)

ドルビープロロジックIIをオフにします。



(DSP) (DSP) ボタンを押す

ドルビープロロジックIIモード選択メニューが表示されます

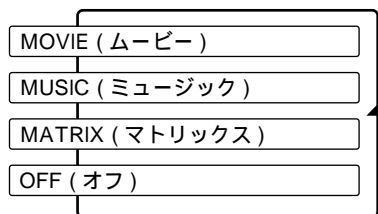
(音の調節 2 2 69 ページ)



c または d ボタンを押す

ドルビープロロジックIIのモードを選びます

切り換わる順番は、次のとおりです。



(BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

スピーカー設定モード (音の調節 2 4 70 ページ) で、センタースピーカーまたはリアスピーカーを設定したときだけ、ドルビープロロジックIIモードに切り換わります。

2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジックIIをONにすると次のような現象が起こることがあります。

- ・ センタースピーカーの設定をSMALL (SML) やLARGE (LRG) にしている場合、センタースピーカーだけから音が出力されることがあります。
- ・ センタースピーカーを接続しないと、音が出力されないことがあります。

ドルビープロロジックIIは、48kHz以下の周波数で動作します。その他の値では効果がありません。

ミュージックモードの調節

ドルビープロロジックIIのモードを、ミュージック (MUSIC) にしたときは、ミュージックモードの調節ができます。



ミュージックモードについて

パノラマ (PANORAMA)

フロントのステレオイメージをサラウンドスピーカーまで拡張して再生します。こうして、広がり感を創出し、包み込みの効果を高めます。

ディメンション (DIMENSION)

フロントスピーカーとリアスピーカー間で、中高域にだけ有効なフェーダーです。前方への定位感を制御するときに調整します。- 3 ~ + 3 の間で調整できます。+ (プラス) 側にすると、音はフロント側に移動します。- (マイナス) 側にすると、音はリア側に移動します。お好みに合わせて調整してください。

センター幅 (CENTER W CONTROL)

センタースピーカーの音を、フロントの左右スピーカーに割り振ります。左右での定位感を制御するときに調整します。0 ~ 7 までの間で調整できます。設定する値によって、次のように変化します。

- 0 : センタースピーカーだけでセンターの音を再生します。フロントの左右スピーカーからは、センターの音の成分は再生されません。
- 3 : 推奨設定です。センタースピーカーとフロントスピーカーでバランスよく配分します。
- 7 : センターの音を、フロントの左右スピーカーに振り分けて再生します。センタースピーカーからは音は出力されません。
- 0 がもっともセンタースピーカー寄りになり、7 が最も左右スピーカー寄りになります。お好みに合わせて調整してください。

1

(DSP) ボタンを押す

ミュージックモード選択メニューが表示されます

(音の調節 2269 ページ)

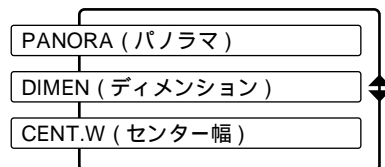


2

c または d ボタンを押す

ミュージックモードを選びます

切り換わる順番は、次のとおりです。



3

a または b ボタンを押す

選択したミュージックモードを調節します

ミュージックモードごとの調整幅は次のとおりです。

PANORA (パノラマ)	: ON/OFF
DIMEN (ディメンション)	: - 3 ~ + 3
CENT.W (センター幅)	: 0 ~ 7

4

(BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

イメージにあった演奏会場を再現する

SFC

「DEQ-P9」に内蔵のサウンドフィールドコントロール(SFC)を使って、演奏会場の音響特性を再現します。クラブやスタジオなどの音場空間を再現し、臨場感溢れる音楽で車室内を満たします。



SFCについて

SFCとは、「Sound Field Control (サウンドフィールドコントロール)」の略です。演奏会場の音は、会場ごとに独特の雰囲気があります。これは、会場の広さや形状、残響特性が異なるため、直接音、初期反射音、残響音の長さや質が変化するからです。SFCには、このようなことを考慮した音場空間プログラムが設定されています。



音場プログラムの内容について

MUSICAL (ミュージカル)

音楽ソフトやミュージカル映画などを楽しむときに最適です。

DRAMA (ドラマ)

リアスピーカーの音と一体になって、1つの大きなスピーカーのように響くイメージで幅広いサラウンド感を再現します。また、直接音もしっかりと響くので、ストーリー重視の映画を楽しむときに最適です。

ACTION (アクション)

躍動感、スピード感に加え、爆発シーンなどの迫力を、包み込むように再現します。アクションシーンの多い映画を楽しむときに最適です。

JAZZ (ジャズ)

ジャズクラブの音場を再現します。ライブ録音の音声などを楽しむときに最適です。

HALL (ホール)

コンサートホールの音場を再現します。残響音豊かな響きで、クラシック音楽などを楽しむときに最適です。

CLUB (クラブ)

クラブの音場を再現します。残響音が吸収されやすい音場を再現するので、ビートのきいた音楽を楽しむときに最適です。

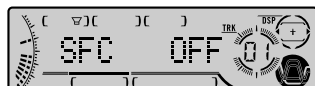
1

DSP

(DSP) ボタンを押す

SFC メニューが表示されます

(E音の調節 2 2 6 9 ページ)



2

c または d ボタンを押す

音場プログラムを選びます

切り換わる順番は、次のとおりです。



3


BAND

(BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

オートイコライザー を ON/OFF する

オートイコライザー選択


オートタイムアライメント&イコライジング
( 音の調節 2 j 8 6 ページ) で設定された値
を ON/OFF できます。




メモ

オートタイムアライメント&イコライジングを行
っていない場合は、オートイコライザーの
ON/OFF 切り換えはできません。

1

 (DSP) ボタンを押す

オートイコライザー選択メニューが
表示されます ( 音の調節 2 2 6 9 ページ)



2

a ボタンを押す

オートイコライザーが ON になります

b ボタンを押すと、オートイコライザーが
OFF になります。

3

 (BAND) ボタンを
押す

ふだんの再生画面に戻ります

オートタイムアライメント&イコライジングを行う前に

**警告**

運転中にAuto TA&EQを行わない



自動車が走行中にAuto TA&EQを行わないでください。Auto TA&EQ機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。

オートタイムアライメント&イコライジング (Auto TA&EQ) 機能とは

車内空間には、形状、材質、スピーカーの取付位置やリスニングポジションなど、さまざまな制約があります。このため、ホームオーディオに比べて、音響特性が大きく乱れています。乱れた音響特性を補正するために、一般的にはイコライザーなどを使用します。しかし、車内の音響特性を最適にするためには、音響測定器などの道具や、音響調整の熟練した技術が必要です。

この、複雑で困難な音響調整を、専用のマイクだけで自動的に行う機能が、「DEQ-P9」の「オートタイムアライメント&イコライジング (Auto TA&EQ)」機能です。

「DEQ-P9」のAuto TA&EQ機能は、車室内を最良の音響空間にするために必要な調整を、全て自動で行います。そして、車室内の音響特性を、乱れが少なく、滑らかな状態に最適化します (Auto EQ)。また、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を測定し、音声の到達時間を補正します (Auto TA)。

こうして、それぞれの車にとって最良の音響空間を手軽に実現します。

スピーカーの破損を防止するために

次の状態で Auto TA&EQ を行うと、スピーカーを破損するおそれがあります。Auto TA&EQ を行う前に、よく確認してください。

- スピーカーの接続を誤っている場合
(例：サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合)
- スピーカーの耐入力を超えるパワーアンプを接続している場合

Auto TA&EQ を行う前に必ずしておくこと

Auto TA&EQ を効果的に行うために、準備していただくことがあります。下記を参照して、正しく準備してください。

- 1 なるべく静かな場所に車を停車させる。
- 2 車のエンジン、エアコン、ヒーターをオフにする。
(エアコンやヒーターのファンの騒音によって、Auto TA&EQ が実行できないことがあります。)
- 3 携帯電話や車載電話の電源をオフにする。または車外に持ち出す。
- 4 「DEQ-P9」に付属の音響特性測定用マイクを用意する。
(それ以外のマイクでは、音響特性が正しく測定されません。)
- 5 フロントスピーカーを接続する。
(接続していないと、Auto TA&EQ が実行できません。)
- 6 フロントスピーカーのミュートを解除する。
(ミュートしていると、Auto TA&EQ が実行できません。)
- 7 スピーカーを設定する。
- 8 リスニングポジションを設定する。
(リスニングポジションを F/R または F/L 以外に設定したときは、Auto TA&EQ をはじめと、強制的に F/R に再設定されます。)
- 9 入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルを推奨位置に合わせる。
 - a ローパスフィルター付きのパワーアンプを接続している場合は、ローパスフィルターをオフにする。
 - b ローパスフィルター付きのパワードサブウーファーを接続している場合は、ローパスフィルターの遮断周波数を最も高い値に設定する。

Auto TA&EQ による調節で変更される設定

Auto TA&EQ を行うと、設定が次のように変更されます。

- 前後左右の音量バランス設定
(フェーダー/バランス)
:初期設定に戻る
- イコライザーカーブ
:フラットに設定される
- リスニングポジション
:F/R に設定される
(F/L に設定していた場合は、F/L のまま)

Auto TA&EQ の調節内容について

再度 Auto TA&EQ を行うと、前回の調整内容は消去されます。

Auto TA&EQ 測定時に算出されたタイムアライメントの値は、コンピューターが算出した正確な遅延時間を基に測定されたものです。次のような場合に、実際の距離と異なることがあります。そのままご使用ください。

- 車室内の反射音が直接音より強く、かつ遅延を生じている
- パワードサブウーファーや外部アンプのローパスフィルターの影響により、低音に遅延が生じている

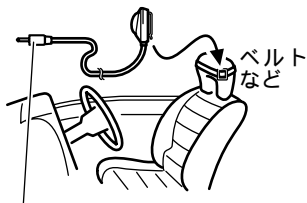
オートタイムアライメント&イコライジングを行う

オートタイムアライメント&イコライジングを行う前に、「オートタイムアライメント&イコライジングを行う前に (E88) 音の調節 2 j 86 ページ」をよく読んで、オートタイムアライメント&イコライジングの準備を行ってください。

1 マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に、「DEQ-P9」に付属のマイクを前向きに固定します

音響特性測定用マイク

オートEQ&オートTA用
マイク入力へ

メモ

マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がるおそれがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。

音響特性測定用マイクをセットする位置により、Auto TA&EQの調整内容が変化します。お好みにより、助手席にセットすることもできます。

音響特性測定用マイクは、必ず「DEQ-P9」に付属のものを使用してください。本機「MEH-P070」に付属の音響特性測定用マイクはご使用になれません。

2

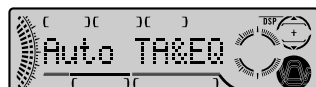
(SOURCE) ボタン
を長く押す

本機の電源をOFFにします

3

Ⓐ (AUDIO) ボタンを
長く押す

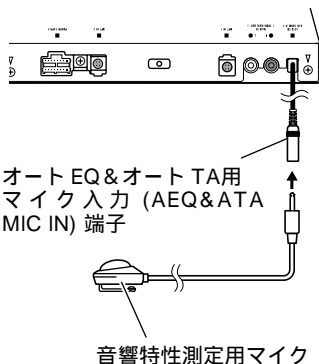
Auto TA&EQ 計測モードが表示されます



4

マイクを「DEQ-P9」に
接続する

「DEQ-P9」に付属の、音響特性測定用マイクを、マイク入力端子 (Auto TA&EQ 用) に接続します

オートEQ&オートTA用
マイク入力 (AEQ&ATA
MIC IN) 端子

音響特性測定用マイク



メモ

「DEQ-P9」に音響特性測定用マイクがしっかりと挿入されていない状態でAuto TA&EQを行うと、エラーが生じます。マイクを確実に挿入して、Auto TA&EQを行ってください。

5 a ボタンを押す

Auto TA&EQ を開始します



メモ

Auto TA&EQを開始してから測定が終了するまでに、約8分かかります。測定時間は周囲の騒音状態、車両形状、スピーカーの数などにより異なります。

6 車の外に出る

「ピッ」という音で10秒のカウントダウンが始まります。10秒以内に車外に出て、ドアを閉めてください。

7 Auto TA&EQ が自動的に終了する

計測が終わると、Auto TA & EQ は自動的に終了します

Auto TA&EQが正常に終了すると、「Complete」と表示されます。



メモ

Auto TA&EQを途中でやめたいときは、BANDボタンを押してください。Auto TA&EQ測定モードを自動的に解除して、電源OFFになります。

音響特性測定用マイクは、グローブボックスなどに入れて、大切に保管してください。直射日光の当たる場所や、高温になる場所に長時間放置すると、変形、変色、故障の原因となります。

初期設定

1

本機をより便利に 使うために

本機をより便利に使うために、数々の機能を搭載しています。初期設定メニューを設定することで、便利な機能をご使用いただけます。必要に応じて、正しく設定してください。

初期設定

2

初期設定メニューの 切り換えかた

1

 (SOURCE) ボタン
を長く押す

本機の電源を OFF にします


2

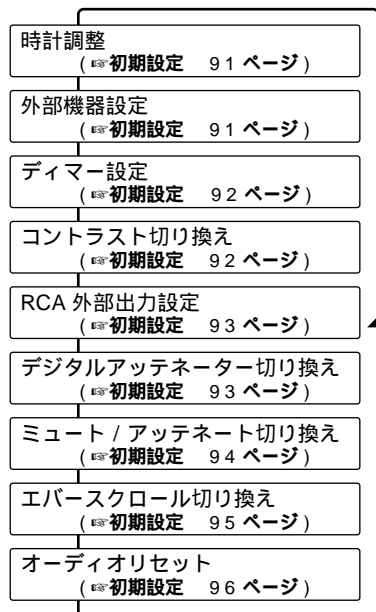
 (FUNCTION) ボタンを
長く押す

初期設定メニューに切り換わります

3

 (FUNCTION) ボタンを
押す

 (FUNCTION) ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります



本機に、5.1ch 対応・DSP ユニ-ト「DEQ-P9」を接続したときだけ、操作できます。



メモ

初期設定メニューを解除するときは、BAND ボタンを押します。

時計を合わせる

時計調整

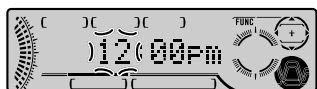
本機のディスプレイに時計を表示するために、時計を合わせておきます。

1 初期設定メニューを表示する

「初期設定メニューの切り換えかた (E3 初期設定 2)」を参照して、初期設定メニューを表示します

2 (F) (FUNCTION) ボタンを押す

時計調整モードが表示されます



3 c または d ボタンを押す

時または分を選びます

押すごとに、時と分が切り換わります。

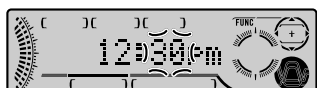
4 a または b ボタンを押す

時刻を合わせます

時刻を進めるとき : a を押す

時刻を戻すとき : b を押す

分を調節すると、0 秒からカウントが始まります。



5 (BAND) ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

外部機器を使う

外部機器設定

本機に、ポータブル機器やVTRなどの機器を接続すると、外部機器 (AUX) として音声を聞くことができます。



外部機器との接続について

別売の、RCA/IP-BUS インターコネクター「CD-RB20」または「CD-RB10」を使うと、RCA 出力を装備した VTR やポータブル機器を、外部機器 (AUX) として本機に接続できます。詳しくは、RCA/IP-BUS インターコネクターの説明書をご覧ください。

1 初期設定メニューを表示する

「初期設定メニューの切り換えかた (E3 初期設定 2)」を参照して、初期設定メニューを表示します

2 (F) (FUNCTION) ボタンを押す

外部機器設定モードが表示されます



3 a ボタンを押す

外部機器 (AUX) の設定が ON になります

b ボタンを押すと、外部機器 (AUX) の設定が OFF になります。

4 (BAND) ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります



メモ

外部機器の名称を変更することもできます。接続した機器に合わせて名称を変更しておくとう便利です。外部機器の名称を変更するには (E3 便利な機能 7 101 ページ) を参照してください。

初期設定

5

夜間のディスプレイの明るさを調節する

ディマー設定

車のヘッドライトに連動して、ディスプレイを暗くできます。夜間運転中など、周囲が暗いときに画面のまぶしさを抑えることができます。

1 初期設定メニューを表示する

「初期設定メニューの切り換えかた (初期設定 290 ページ)」を参照して、初期設定メニューを表示します

2

(F) (FUNCTION) ボタンを押す

ディマー設定モードが表示されます



3

a ボタンを押す

ディマー設定がONになります

b ボタンを押すと、ディマー設定がOFFになります。

4

(BAND) ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源がOFFになります

初期設定

6

コントラストを変えて画面を見やすくする

コントラスト切り換え

運転席や助手席など、本機を斜め上から見て操作する場合、ディスプレイ表示が見にくくなることがあります。コントラストを切り換えることで、斜め上から見たときに操作しやすいディスプレイに設定できます。

1

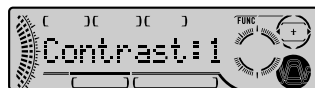
初期設定メニューを表示する

「初期設定メニューの切り換えかた (初期設定 290 ページ)」を参照して、初期設定メニューを表示します

2

(F) (FUNCTION) ボタンを押す

コントラスト切り換えモードが表示されます



3

c または d ボタンを押す

コントラストを切り換えます

Contrast 1 : c を押す
(正面から見やすい画面にするとき)
Contrast 2 : d を押す
(斜め上から見やすい画面にするとき)

4

(BAND) ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源がOFFになります

RCA 外部出力から 出力される信号を選ぶ

RCA 外部出力設定

本機の RCA 外部出力に外部アンプを接続して、リアスピーカーまたはサブウーファーを使用できます。接続するスピーカーに応じて、RCA 外部出力から出力される信号を選んでください。



ご注意

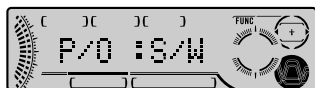
本機に 5.1ch 対応・DSP ユニット「DEQ-P9」を接続しているときは、この機能は使用できません。

1 初期設定メニューを表示する

「初期設定メニューの切り換えかた (初期設定 290 ページ)」を参照して、初期設定メニューを表示します

2 (F) (FUNCTION) ボタンを押す

RCA 外部出力設定モードが表示されます



3 c または d ボタンを押す

RCA の出力方法を切り換えます

S/W : c を押す

(サブウーファーを接続するとき)

Rear : d を押す

(リアスピーカーを接続するとき)

4 (BAND) ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

音の歪みを補正する

デジタルアッテネーター

イコライザーカーブの調節をすると、音が歪むことがあります。デジタルアッテネーターを使うことで音の歪みをなくし、心地よい音で音楽を楽しむことができます。



メモ

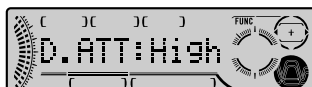
イコライザーカーブの調整で、レベルを高く設定した周波数の音が歪むことがあります。イコライザーカーブの調整で音が歪んだように感じたときは、「Low」に設定してください。通常は、音質の優れた「High」でご使用ください。

1 初期設定メニューを表示する

「初期設定メニューの切り換えかた (初期設定 290 ページ)」を参照して、初期設定メニューを表示します

2 (F) (FUNCTION) ボタンを押す

デジタルアッテネーター切り換えモードが表示されます



3 c または d ボタンを押す

デジタルアッテネーターを切り換えます

Low : c を押す

High : d を押す

4 (BAND) ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

ミュート/アッテネートを切り換える

ミュート/アッテネート切り換え

本機は、ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときに、一時的に音量を減衰させます。ミュートに設定した場合、音量は0になります。アッテネートに設定した場合は、設定内容に応じて、もとの音量の1/3または1/10に変化します。お好みに合わせてミュートまたはアッテネートに設定してください。



ミュート/アッテネート機能について

ミュート機能のあるパイオニア製ナビゲーションユニットなどと本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っているときだけ、ミュートまたはアッテネート機能が働きます。ミュート信号を受け取っているとき、音量は以下のように変化します。

- ON : 音量は0になります。
- 10dB : もとの音量の約1/3になります
(10dB アッテネート)
- 20dB : もとの音量の約1/10になります
(20dB アッテネート)

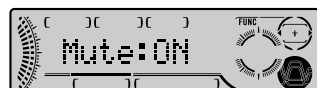
ミュートまたはアッテネート機能が解除されると、自動的にもとの音量に戻ります。

1 初期設定メニューを表示する

「初期設定メニューの切り換えかた (初期設定 290 ページ)」を参照して、初期設定メニューを表示します

2 (F) (FUNCTION) ボタンを押す

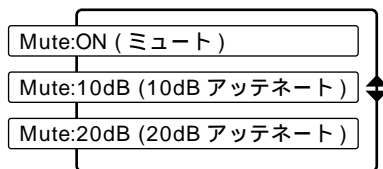
ミュート/アッテネート切り換えモードが表示されます



3 c または d ボタンを押す

ミュート/アッテネートの設定を選びます

切り換わる順番は、次のとおりです。



4 (BAND) ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源がOFFになります

タイトルのスクロール 方法を変える

エバースクロール切り換え

ディスプレイに表示される文字のスクロール方法を変えることができます。タイトルなどの文字を常にスクロールさせたいときは、この機能をONにしてください。一度だけスクロールさせたいときは、この機能をOFFにしてください。

1 初期設定メニューを表示する

「初期設定メニューの切り換えかた (初期設定 290 ページ)」を参照して、初期設定メニューを表示します

2 (F) (FUNCTION) ボタンを押す

エバースクロール切り換えモードが表示されます



3 a ボタンを押す

エバースクロールがONになります

b ボタンを押すと、エバースクロールがOFFになります。

4 (BAND) ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源がOFFになります

オーディオ設定をリセットする

オーディオリセット

5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続したとき、オーディオ設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。オーディオ設定を再調整したいときに便利です。



ご注意

本機に5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続しているだけ、この機能が使用できます。



リセットされる設定について

次の設定がリセットされます。

- ・スピーカーサイズ設定
(※ 音の調節 2 4 7 0 ページ)
 - ・クロスオーバー周波数設定
(※ 音の調節 2 5 7 2 ページ)
 - ・スピーカーレベル設定
(※ 音の調節 2 6 7 3 ページ)
 - ・タイムアライメント選択
(※ 音の調節 2 8 7 5 ページ)
 - ・3バンドパラメトリックイコライザー調整
(※ 音の調節 2 e 8 0 ページ)
 - ・ドルビープロロジックIIモード選択
(※ 音の調節 2 g 8 2 ページ)
 - ・ミュージックモード選択
(※ 音の調節 2 g 8 3 ページ)
 - ・SFC (サウンドフィールドコントロール)
(※ 音の調節 2 h 8 4 ページ)
 - ・オートイコライザー選択
(※ 音の調節 2 i 8 5 ページ)
 - ・オートタイムアライメント&イコライジング
(※ 音の調節 2 k 8 8 ページ)
- 次の設定はリセットされません。
- ・音量バランス調節定
(※ 音の調節 2 3 7 0 ページ)
 - ・ダウンミックス
(※ 音の調節 2 a 7 7 ページ)
 - ・ダイナミックレンジコントロール
(※ 音の調節 2 b 7 8 ページ)
 - ・ダイレクト
(※ 音の調節 2 c 7 8 ページ)
 - ・リスニングポジション選択
(※ 音の調節 2 f 8 1 ページ)

1

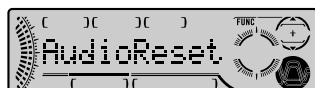
初期設定メニューを表示する

「初期設定メニューの切り換えかた (※ 初期設定 2 9 0 ページ)」を参照して、初期設定メニューを表示します

2

ⓕ (FUNCTION) ボタンを押す

オーディオリセットモードが表示されます



3

a ボタンを押す

リセットを選びます

確認のため、「Reset OK?」が表示されます。

4

d ボタンを押す

リセットの確認をします

再確認のため、「Really?」が表示されます。

5

a ボタンを押す

リセットします

「Complete」が表示され、オーディオリセットが完了します。

6

BAND ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源がOFFになります

便利な機能

1

その他の便利な機能について

本機には、「時計を表示する」「交通情報を受信する」など、知っておくと便利な機能が装備されています。

お好みに合わせてご使用ください。

便利な機能

2

時計を表示する

時計表示

本機のディスプレイに、時計を表示できます。時計は、本機の電源がONのときもOFFのときも表示させることができます。



時計表示について

本機に時計を表示させる前に、時計を合わせる必要があります。「時計を合わせる (初期設定 391 ページ)」を参照して、時計を合わせてください。

1



(TI) ボタンを長く押す

時計が表示されます

もう一度 (TI) ボタンを長く押すと、時計表示が解除されます。



メモ

本機の電源がONのときは、時計表示中に他の操作をすると、時計表示は一度解除されます。この場合、25秒後に時計表示に戻ります。

交通情報を受信する

トラフィックインフォメーション

高速道路などで放送している交通情報ラジオを、瞬時に受信できます。AM 1,620 kHzとAM 1,629 kHzの切り換えも簡単に行うことができます。この機能は、電源がOFFのときでも、どのソースからでも操作できますので、情報を逃さず受信できます。

1

TI (TI) ボタンを押す

AM 1,620 kHz の交通情報を
受信します



2

c または d ボタンを押す

交通情報の周波数を切り換えます

1,620 kHz を選ぶとき : c を押す
1,629 kHz を選ぶとき : d を押す

3

TI (TI) ボタンを押す

交通情報の受信を解除します

交通情報を受信する前の状態に戻ります。



メモ

交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定できます。交通情報を受信すると、自動的に交通情報用のイコライザーカーブに切り換わります。交通情報の受信をやめると、イコライザーカーブはもとの状態に戻ります。交通情報を受信しているときは、イコライザーの調節はできません。

瞬時に音量を小さくする

アッテネーター

車内の会話や車外の音が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を小さくできます。もとの音量へも瞬時に戻すことができます。



メモ

この機能は、本機に付属のリモコンで行います。

1

リモコンの (ATT) (ATT) ボタンを押す

音量が 1/10 になります

もう一度 (ATT) (ATT) ボタンを押すと、解除されます。



便利な機能

5


エンタテインメントを切り換える

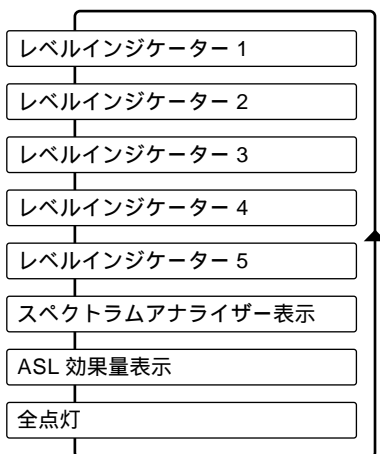
ディスプレイに表示されるレベルインジケーターなどの表示方法を変更できます。お好みに合わせて設定してください。

1

(EQ) ボタンを長く押す

エンタテインメント表示が切り換わります

 (EQ) ボタンを長く押すごとに、次の順序でエンタテインメント表示が切り換わります。



便利な機能

6

外部機器に合わせてデジタル接続に切り換える

パイオニア製のナビゲーションユニットと5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を光デジタルラインで接続して、本機と組み合わせたときに、ナビゲーションユニットで選択したソースの音声を、AUX (外部機器) として車両のスピーカーから出力できます。



ご注意

本機に5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続しているだけ、この機能が使用できません。



デジタルに設定する場合について

ナビゲーションユニットに内蔵のプレーヤーをソースとして選択しているときは、本機のAUX (外部機器) のモードをデジタルに設定してください。




アナログに設定する場合について

ナビゲーションユニットのテレビ、ミュージックサーバーをソースとして選択しているときは、本機のAUX (外部機器) のモードをアナログに設定してください。

1

 (SOURCE) ボタンを押す

ソースをAUX (外部機器) にします

( ここだけで120ページ)

2

 (BAND) ボタンを押す

デジタル (Digital) とアナログ (Analog) を切り換えます

押すごとに、デジタル (Digital) とアナログ (Analog) が切り換わります。


外部機器の名称を入力する

AUX (外部機器) 名称入力

接続したAUX (外部機器) の名称を入力できます。接続した機器に合わせて名称を変更しておく便利です。

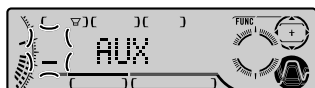
1 (SOURCE) ボタンを押す

ソースをAUX (外部機器) にします


( ここだけで 1 20 ページ)

2 (FUNCTION) ボタンを長く押す

AUX (外部機器) 名称入力モードが表示されます



3 AUX (外部機器) の名称を入力して記憶させる

CDタイトル入力 ( マルチCD a 42 ページ) の手順 4 ~ 8 を参照し、同様の操作でAUX (外部機器) の名称を入力してください。



メモ

外部機器の名称は10文字まで入力できます。

使用できる MD について

下記マークの付いている MD (ミニディスク) をご使用ください。



音楽用以外の MD は使用しないでください。故障の原因になります。

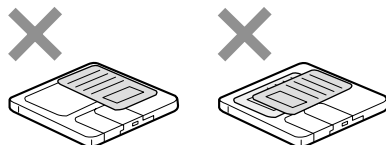
取り扱い上のご注意

MD のシャッターを手であけないでください。無理にあけるとこわれることがあります。

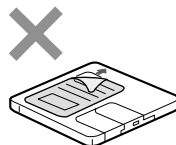


ラベルについて

MD に付属のラベルは、必ず指定の位置に貼ってください。指定以外の位置に貼ったり、2 枚重ねて貼ったりすると、MD が取り出せなくなることがあります。

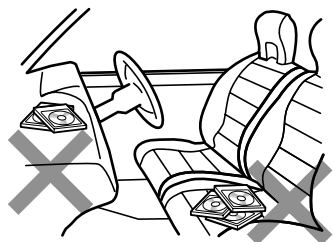


ラベルがめくれたり、浮いたりした MD は使用しないでください。ラベルが引っかかり、MD が取り出せなくなります。このような MD は新しいラベルに貼り換えてからお使いください。



保管上のご注意

MDは、直射日光の当たるところや高温になるところには、保管しないでください。



寒いときの結露について

寒いとき、ヒーターを入れた直後にMDの再生を始めると、本機内部の光学系レンズやMDに露が付いて、正常な再生ができないことがあります。

このようなときは、1時間ほど放置して自然に露がとれるのをお待ちください。MDのカートリッジ表面に付いた露は柔らかい布で拭いてください。

お手入れについて

MDのカートリッジ表面が汚れたときは、柔らかいきれいな布で軽く拭いてください。

MDにベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



MD用クリーニングディスクを使用するときは、クリーニングディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

クリーニングディスクによっては製品の故障の原因になる場合があります。

故障かな？と思ったら

故障かな？と 思ったら

修理を依頼される前に、
次の表の内容をチェック
してください。



それでも 直らないときは

「保証書とアフターサービ
ス」(E3 その他 4 109 ペ
ジ) をお読みになり、修
理を依頼してください。

共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが 正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう 一度確認してください。(E3 取付説明書)
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒュー ズと同じ容量のものと交換してください。 (E3 取付説明書)
音が出ない。 音が小さい。	音量を下けている。	音量を上げてください。 (E3 ここだけで 1 20 ページ)
	アッテネーターがONになっ ている。	アッテネーターを解除してください。 (E3 便利な機能 4 99 ページ)
	前後の音量バランスの調節が 適切でない。	正しく調節してください。 (E3 音の調節 1 3 50 ページ) (E3 音の調節 2 3 70 ページ)
前または後ろのスピーカー から音が出ない。	前後の音量バランスの調節が 適切でない。	正しく調節してください。 (E3 音の調節 1 3 50 ページ) (E3 音の調節 2 3 70 ページ)
左または右のスピーカーか ら音が出ない。	左右の音量バランスの調節が 適切でない。	正しく調節してください。 (E3 音の調節 1 3 50 ページ) (E3 音の調節 2 3 70 ページ)
音量が自動で変化する。	ASL がONになっている。	ASL を解除してください。 (E3 音の調節 1 j 63 ページ)

ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください。 (🔍 ここだけで 3 25 ページ)
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。 (🔍 ここだけで 3 25 ページ)
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください。 (🔍 ここだけで 3 25 ページ)

MD

症状	原因	処置
MD再生中、大きな雑音が出る。	MDが極端に汚れている。	MDを交換してください。
CDの再生が途中で止まる。	MDにくもりや水滴が付いている。	MDを交換してください。
	録音されていないMDを挿入した。	MDを交換してください。
	MDが正しい方向にセットされていない。	MDを取り出し、正しい方向に挿入してください。(🔍 ここだけで 2 22 ページ)

次のページへ続く

「DEQ-P9」接続時

症状	原因	処置
音が出ないスピーカーがある。	スピーカーサイズの設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく設定してください。 (音の調節 2 4 7 0 ページ)
	スピーカーのレベル設定が極端に小さくなっている。	他のスピーカーのレベルとバランスを取ってください。 (音の調節 2 6 7 3 ページ)
	センタースピーカーを接続していない状態で、センタースピーカーのサイズをSMALLやLARGEにしている。	センタースピーカーのサイズ設定をOFFにしてください。 (音の調節 2 4 7 0 ページ)
スピーカーを調節できない。	スピーカーのサイズ設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく設定してください。 (音の調節 2 4 7 0 ページ)
タイムアライメントを調節できない。	リスニングポジションの設定が間違っている。	リスニングポジションを正しく設定してください。 (音の調節 2 5 8 1 ページ)
	スピーカーサイズの設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく設定してください。 (音の調節 2 4 7 0 ページ)
サブウーファースの位相が切り換えられない。	サブウーファースの設定がOFFになっている。	サブウーファースの設定をONにしてください。 (音の調節 2 4 7 0 ページ)
低音域が聞こえない。	サブウーファースの設定がOFFで、それ以外のスピーカーのサイズ設定もSMALLやOFFになっている。	正しく調節してください。 (サブウーファースを接続していないときは、フロントまたはリアスピーカーのサイズ設定はLARGEにしてください。 (音の調節 2 4 7 0 ページ)
ドルビープロロジックIIをONにすると、音が出ないことがある。	センタースピーカーを接続していない状態で、センタースピーカーのサイズ設定をSMALLやLARGEにしている。	センタースピーカーのサイズ設定をOFFにしてください。(モノラル音声の場合、ドルビープロロジックIIをONにすると、センタースピーカーだけから音が出力されます。 (音の調節 2 4 7 0 ページ)
センタースピーカー以外のスピーカーから音が出ないことがある。	ドルビープロロジックIIがONになっている。	ドルビープロロジックIIをOFFにしてください。(モノラル音声の場合、ドルビープロロジックIIをONにすると、センタースピーカーだけから音が出力されます。 (音の調節 2 9 8 2 ページ)
ダイナミックレンジコントロールをONにしても効果がない。	再生しているソースがドルビーデジタル音声ではない。	ドルビーデジタル音声にだけ有効な機能です。 (音の調節 2 6 7 8 ページ)
DVDの音声だけ出ない。	光デジタルラインが外れている。	「DEQ-P9」に、光デジタルラインを正しく接続してください。 (取付説明書)

MDのエラー表示




メッセージ(エラー番号)	原因	処置
「No Data」	ディスク名が入力されていないMD 再生中にディスク名表示に切り替えたとき。 (内蔵 MD ❶ 28 ページ)	ディスク名表示以外の表示に切り換えてください。
「TEMP」	曲名が入力されていない曲を再生中に、曲名表示に切り換えたとき。 (内蔵 MD ❶ 28 ページ)	曲名以外の表示に切り換えてください。
「ERROR-11」「ERROR-12」 「ERROR-17」「ERROR-30」 「ERROR-20」「ERROR-21」	MDが汚れているとき。 MDにキズやひびがあるとき。 振動などが原因で、曲の情報が読みとれなかったとき。 MDに異常(損傷している、TOCが入っていないなど)があるとき。	MDを交換してください。 MDを取り出し、もう一度入れ直してください。それでも同じメッセージが出る場合は、他のMDと交換してください。
「ERROR-22」「ERROR-24」	MDに異常(損傷している、TOCが入っていないなど)があるとき。	他のMDと交換してください。
「ERROR-23」	音楽以外の情報が収録されたMDを使用したとき。	音楽が収録されたMDを使用してください。
「ERROR-10」「ERROR-11」 「ERROR-12」「ERROR-17」 「ERROR-30」「ERROR-50」 「ERROR-A0」	電気系、機構系の故障が考えられるとき。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、MD再生を一度やめてから、もう一度MD再生にしてください。
「ERROR-」	MDが何らかの原因で再生しないとき。	他のMDと交換してください。
	何も録音されていないMDを挿入したとき。	他のMDと交換してください。



TOC について

TOC (Table Of Contents) とは、CD・MD・DATなどに収録されている、曲数、演奏時間、タイトルなど、音声信号以外の情報のことです。

オートイコライジングのエラー表示

メッセージ	原因	処置
「MIC ERR」 「Insert MIC」	マイクが接続されていない。	音響特性測定用マイクをきちんと差し込んでください。 ( 音の調節 1 166 ページ) ( 音の調節 2 88 ページ)
「F-L SP ERR」 「F-R SP ERR」 「F-SP ERR」 「R-L SP ERR」 「R-R SP ERR」 「SUB W ERR」	スピーカーの計測音がマイクで拾えない。	ソースを切り換えて、スピーカーから音が出るか確認してください。音が出ない場合は、スピーカーリード線の接続を確認してください。( 取付説明書) 付属のマイクを正しくセットしてください。 なるべく静かなところに車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。
「Noise ERR」	周囲の騒音レベルが高すぎる。	なるべく静かなところに車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。 付属のマイクを正しくセットしてください。

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることを確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

MD プレーヤー部

形式 : ミニディスクデジタル
オーディオシステム
使用ディスク : ミニディスク
信号
フォーマット : サンプリング周波数 : 44.1 kHz
量子化ビット数 : 16 ビット直線
周波数特性 : 20 ~ 20,000 Hz (± 1 dB)
S/N : 92 dB (1 kHz)
(IHF-A ネットワーク)
ダイナミック
レンジ : 90 dB (1 kHz)
チャンネル数 : 2 (ステレオ)

FM チューナー部

受信周波数帯域 : 76.1 ~ 89.9 MHz
実用感度 : 8 dBf (0.7 μ V/75 、
モノラル、S/N : 30 dB)
S / N 50 dB
感度 : 10 dBf
(0.9 μ V/75 、モノラル)
S / N : 75 dB (IHF-A ネットワーク)
高調波歪率 : 0.3 %
(65 dBf 入力、1 kHz、ステレオ)
0.05 %
(65 dBf 入力、1 kHz、モノラル)
周波数特性 : 30 ~ 15,000 Hz (± 3 dB)
ステレオ
セパレーション : 45 dB (65 dBf 入力、1 kHz)

AM チューナー部

受信周波数帯域 : 522 ~ 1,629 kHz (9 kHz)
実用感度 : 18 μ V (S/N : 20 dB)
S/N : 67 dB (IHF-A ネットワーク)

アンプ・オーディオ部

最大出力 : 50 W × 4
定格出力 : 22 W × 4
(50 ~ 15,000 Hz、5 % THD)
負荷
インピーダンス : 4
(4 ~ 8 使用可能)
プリアウト
最大出力レベル : 2.2 V
出力
インピーダンス : 1 k
ラウドネス
コンター : 10 dB (100 Hz)
6.5 dB (10 kHz)
(Volume : - 30 dB)

イコライザー (13 バンド グラフィック

イコライザー) : 周波数:
50/80/125/200/315/500/
800/1.25k/2k/3.15k/5k/
8k/12.5k (Hz)
調整幅 : ± 12 dB (2 dB)

オート

イコライザー :

(Front&Rear&Subwoofer 13 Band Graphic)

周波数 (F + R + SW) :

50/80/125/200/315/500/

800/1.25k/2k/3.15k/5k

8k/12.5k (Hz)

調整幅: - 12 ~ + 6 dB (2dB)

HPF (Front/Rear) :

周波数:

50/63/80/100/

125/160/200 (Hz)

スロープ:

0 (PASS)、 - 6 (dB/oct.)、

- 12 (dB/oct.)

調整幅: - 24 ~ ± 0 dB (1 dB)

Subwoofer :

周波数:

50/63/80/100/

125/160/200 (Hz)

スロープ:

- 6、 - 12、 - 18 (dB/oct.)

調整幅: + 6 ~ - 24 dB (1 dB)

位相: Normal/Reverse

共通部

使用電源 : DC 14.4 V

(10.8 ~ 15.1 V 使用可能)

アース方式 : マイナスアース方式

最大消費電流 : 10.0 A

外形寸法

(取付寸法) : 178 (W) × 50 (H) × 162 (D) mm

(ノーズ寸法) : 170 (W) × 46 (H) × 14 (D) mm

質量 : 1.2 kg (コードユニット含まず)

付属品

カードリモコン : 1

音響特性

測定用マイク : 1

コードユニット : 1

取付ネジ類 : 1 式

取扱説明書 : 1

取付説明書 : 1

安全上のご注意 : 1

保証書 : 1

ご相談窓口・

修理窓口のご案内 : 1

ドルビーラボラトリーズの米国および外国特許に基づく許諾製品。



メモ

上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。



この説明書の印刷には、植物性
大豆油インキを使用しています。

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。
なお、修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

パイオニアホームページ：お客様サポート <http://www.pioneer.co.jp/support/index.html>
（商品についてよくあるお問い合わせ・カタログの請求・メールマガジン登録のご案内など）

<下記窓口へのお問い合わせ時のご注意>

市外局番「0070」で始まる ☎ フリーフォン、および「0120」で始まる ☎ フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからはご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどから利用可能ですが、通話料がかかります。

商品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付 月曜～金曜 9：30～17：00、土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～17：00（弊社休業日は除く）

カーオーディオ／カーナビゲーション商品のご相談窓口およびカタログのご請求窓口

☎ **0070-800-8181-11**

☎ 【一般電話】 **03-5496-8016**

ファックス受付 ☎ **03-3490-5718**

部品のご購入についてのご相談窓口

部品（付属品・リモコン・取扱説明書など）のご購入については、部品受付センターへお問い合わせください。

部品受付センター

受付 月曜～金曜 9：30～18：00、土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～17：00（弊社休業日は除く）

☎ **0120-5-81095**

☎ 【一般電話】 **0538-43-1161**

☎ **0120-5-81096**

修理についてのご相談窓口

お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合は、修理受付センターへ（沖縄の方は、沖縄サービスステーションへ）

修理受付センター（沖縄県を除く全国）

受付 月曜～金曜 9：30～19：00、土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～18：00（弊社休業日は除く）

☎ **0120-5-81028**

☎ 【一般電話】 **03-5496-2023**

☎ **0120-5-81029**

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付 月曜～金曜 9：30～18：00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

☎ 【一般電話】 **098-879-1910**

☎ **098-879-1352**

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

この説明書は、再生紙を使用しています。

© パイオニア株式会社 2004

< KSNZX > < 05A00000 > < CRA3717-A >